

瀬戸内市スポーツ推進計画 (改訂版)



令和4年3月
瀬戸内市

目次

第1章 計画の概要

1 計画見直しの趣旨	1
2 計画の位置付け	2
3 計画の期間	2
4 計画の目標	2

第2章 基本施策

1 スポーツ活動の場所と機会の提供	4
1) スポーツ施設の整備の推進	4
① スポーツ施設の現状	4
② スポーツ施設の課題	5
③ スポーツ施設の整備に関する施策の展開	5
④ アンケート結果による考察	5
2) 学校体育施設の開放の推進	8
① 学校体育施設の開放の現状	8
② 学校体育施設の開放の課題	8
③ 学校体育施設の開放に関する施策の展開	8
④ アンケート結果による考察	8
2 多様なスポーツ活動の支援	9
1) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	9
① 幼児期の運動遊び等の推進	9
② 青少年期のスポーツ活動の推進	10
③ 成年期のスポーツ活動の推進	14
2) スポーツ推進委員活動の推進	19
① スポーツ推進委員の役割	19
② スポーツ推進委員の技術・技能の活用	19
③ スポーツ推進委員会の組織強化	20
3) 瀬戸内市体育協会活動の推進	20
① 体育協会の役割	20
② 市民スポーツ活動の実施と推進	20
③ 競技部会活動の充実と推進	20
④ 体育協会の組織強化	21
4) 瀬戸内市スポーツ少年団活動の推進	22
① スポーツ少年団の役割と課題	22
② 指導者の養成と資質の向上	22
③ 育成母集団の支援	22
④ リーダーの養成	22

3	スポーツ団体の支援	25
1)	瀬戸内市体育協会の支援	25
①	財政的支援	25
②	側面的支援	25
2)	瀬戸内市スポーツ少年団の支援	25
①	財政的支援	25
②	側面的支援	25
3)	総合型地域スポーツクラブの支援	25
①	既存クラブの支援	25
②	新規設立の支援	25
4)	B & G瀬戸内海洋クラブの支援	25
①	財政的支援	25
②	側面的支援	26
③	B & G指導者会の充実	26
5)	市内各種スポーツ団体の支援	26
①	社会体育施設・学校体育施設定期利用団体の支援	26
②	その他のスポーツ団体の支援	26
4	スポーツ指導者・ボランティアの育成	27
1)	地域スポーツ指導者の育成	27
①	青少年期のスポーツ指導者の育成	27
②	成年期のスポーツ指導者の育成	27
2)	地域でスポーツを支えるボランティアの育成	28
①	スポーツを支える意識の醸成	28
②	スポーツボランティアの育成	28
5	トップレベルで活躍する選手等の支援	30
1)	国際大会、全国大会等へ出場する選手・指導者の支援	30
2)	スポーツ表彰制度の整備	30
6	スポーツ活動等の情報発信	31
1)	大会情報等の広報	31
2)	広域連携による情報発信	32

第3章 計画の進め方

1	計画推進の考え方	33
2	進捗状況の管理	34
3	体育協会・スポーツ少年団との連携	34
4	市民総参加に向けて	34
5	スポーツの推進に関する体系図	35

第4章 資料編

1	瀬戸内市民のスポーツ活動に関する調査結果	37
---	----------------------	----

第1章 計画の概要

1 計画見直しの趣旨

瀬戸内市では、スポーツに関する施策の総合的な推進を図るため、「スポーツを通じ健やかに暮らせるまち」を計画の目標とし、①スポーツ活動の場所と機会の提供、②多様なスポーツ活動の支援、③スポーツ団体の支援、④スポーツ指導者・ボランティアの育成、⑤トップレベルで活躍する選手等の支援、の5つの基本施策を掲げ、平成29年3月に「瀬戸内市スポーツ推進計画」を策定しました。

この間、国では、同じ時期に「第2期スポーツ基本計画」を策定し、地域の特性や現場のニーズに応じたスポーツの施策を主体的に実施するとともに、スポーツを通じた健康増進、共生社会の実現や経済・地域の活性化など、スポーツを通じた活力ある社会づくりに関係部局・団体が一体となって取り組むことが求められてきました。

また、岡山県では、平成30年3月に「岡山県スポーツ推進計画」の見直しを行い、引き続き「スポーツ立県おかやま」の実現への取り組みを行うため、「する」「みる」「ささえる」すべての県民がスポーツで笑顔輝く生き生き岡山をスローガンとして掲げ、健康で豊かな生活と地域社会の活性化を目指していくとしています。

一方で、スポーツを取り巻く環境も大きく変化しており、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックを踏まえて、「新しい生活様式」を考慮したスポーツイベントの運営やスポーツ行政の在り方などを見直す必要が生じています。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、1年延期後に無観客で開催されましたが、公式種目として新たにスケートボード、自転車BMXフリースタイル、スポーツクライミングなどが採用され、スポーツへの関心が高まっています。

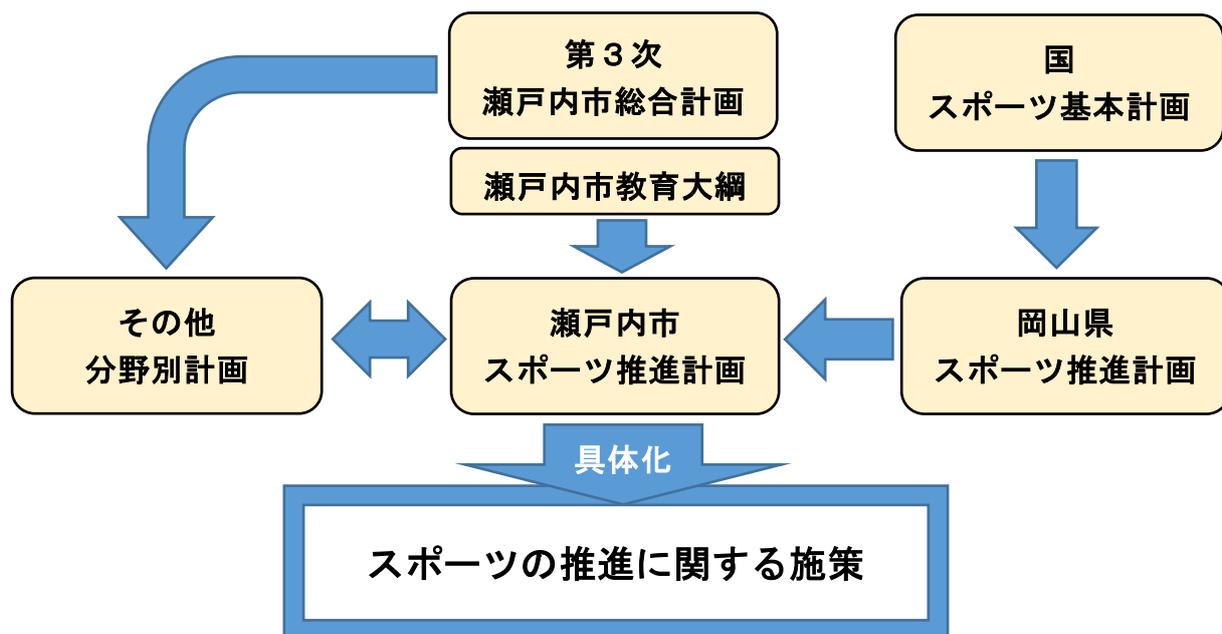
こうした中で、前期5か年が終了する令和3年度に、これまで行ってきた事業の評価を行い、諸情勢や市の状況の変化等に対応した見直しが必要になっています。

そのため、市民のスポーツの実態を把握するためのアンケート調査を実施するとともに、第3次瀬戸内市総合計画、瀬戸内市教育大綱との整合性を図り、岡山県の「する」「みる」「ささえる」といった様々なスポーツへの参画に対する内容を盛り込む形で、本計画の見直しを行うこととしています。

2 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項に定める国のスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものと規定された「地方スポーツ推進計画」であるとともに、本市のスポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画です。

また、市政の総合的計画である「第3次瀬戸内市総合計画」に掲げる「未来に輝く人づくりと文化の創造」を推進するための個別事業計画の一つです。



3 計画の期間

本計画の期間は、平成29年度から令和8年度までの10年間とします。

ただし、見直し後の計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

4 計画の目標

スポーツを通じ健やかに暮らせるまち

すべての市民が「スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える」というスポーツ活動に参加することにより、スポーツを通じた人づくり、地域づくりを実現し、「スポーツを通じ健やかに暮らせるまち」の実現を目指します。

第2章 基本施策

すべての市民が健やかでいきいきと暮らせるよう、健康づくりや体力づくりを行い、市民一人ひとりが豊かなつながりの中で、スポーツを通じて健やかに暮らせるまちをつくります。

そのために、市民が生涯にわたって、スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参加できるように、それぞれの体力や年齢、技術、目的に応じてスポーツに親しむことができる場所と機会の提供を行います。

また、すべての市民がスポーツの楽しさを経験することにより、体力の向上や健康の増進が実感できるよう、市民のライフステージに応じた運動・スポーツ活動を推進するとともに、年齢や性別、身体能力に応じて適切に指導できる指導者やボランティアを育成することにより、さまざまなスポーツ活動を支援します。

さらに、国際大会や全国大会等に出場するなど、トップレベルで活躍する選手、指導者を支援し、広く市民に広報することにより、市民のスポーツに対する関心を高めます。

これらのことを達成するために、「スポーツ活動の場所と機会の提供」「多様なスポーツ活動の支援」「スポーツ団体の支援」「スポーツ指導者・ボランティアの育成」「トップレベルで活躍する選手等の支援」を基本施策の5つの柱とし、計画を策定します。

また、計画の策定にあたり、市民の各年代の健康や体力に関する意識やスポーツの実施状況等を把握するため、瀬戸内市民のスポーツ活動に関する調査（20歳以上の瀬戸内市民対象）、小中学生のスポーツ活動に関する調査（小学校4～6年生、中学生対象）を実施いたしました。この調査は、前回実施した平成28年度と同じものに、岡山県が掲げるスローガンである「する」「みる」「ささえる」を踏まえた新たな項目を追加しています。当該調査の結果から、市民のスポーツに関する意識やスポーツ活動の実態等を把握し、5つの基本施策に新たな目標「スポーツ活動等の情報発信」を加えた6つの基本施策により計画を策定します。

1 スポーツ活動の場所と機会の提供

既存のスポーツ施設の整備と有効利用を図りながら、学校体育施設の開放を進め、定期的、継続的にスポーツ活動に参加できる場所と機会を提供します。

また、全市的な大会・イベント等に対応できる施設の建設に向けた検討を開始し、市民が日常的なスポーツ活動の成果を発揮するための場所と機会の提供に努めます。

1) スポーツ施設の整備の推進

① スポーツ施設の現状

瀬戸内市には下表のようなスポーツ施設があり、土日や祝日などには大会・教室などの多くの事業が実施されています。また、平日の夜間は定期利用団体による自主活動が実施され、市民のスポーツの日常化に大きく貢献しています。

また、市内の多くの施設に指定管理制度が導入され、特定非営利活動法人瀬戸内市体育協会が管理・運営することにより、幅広い企画運営が可能となりました。体育協会は、市と連携し、指定管理施設及び市直営施設を有効に利用し、さまざまなスポーツイベント、教室、講習会等を開催しています。

《 瀬戸内市のスポーツ施設 》

地 区	名 称	施 設
牛窓地域	瀬戸内市牛窓体育館 休館中（利用中止）	体育館
	瀬戸内市牛窓グラウンド	グラウンド
	瀬戸内市邑久B & G海洋センター艇庫	艇庫
邑久地域	瀬戸内市邑久スポーツ公園	芝グラウンド
		テニスコート
		野球場
	瀬戸内市邑久B & G海洋センター	アリーナ
		サブアリーナ
		プール
		ミーティングルーム
瀬戸内市玉津体育館	体育館	
瀬戸内市邑久自然教育の森キャンプ場	キャンプ場	
長船地域	瀬戸内市長船スポーツ公園	アリーナ
		トレーニングルーム
		多目的広場
		テニスコート
	瀬戸内市長船B & G海洋センター	プール

② スポーツ施設の課題

瀬戸内市のスポーツ施設は、旧町（牛窓町、邑久町、長船町）の合併以前に建設されたもので、旧町の規模に合わせたものとなっています。このため、合併後の瀬戸内市全体規模の大会・イベントを実施するには施設が手狭で、市民が満足できる規模の大会・イベントが開催できていない状況です。このため、全市的な大会・イベントに対応できる規模の体育館やグラウンドの建設が必要となっています。

また、既存施設の老朽化も進んでいるため、小規模な修繕を繰り返しながら使用している施設も多く、抜本的な改修計画等も必要となっています。

③ スポーツ施設の整備に関する施策の展開

計画的な修繕及び改修により、既存のスポーツ施設の整備を図ります。また、全市的な大会・イベントの開催に対応できる規模の体育館やグラウンドの建設に向けた検討を行います。

④ アンケート結果による考察

市内のスポーツ施設に対する市民の満足度はかなり低いものと言わざるを得ない結果となりました。「満足していない」「あまり満足していない」を合わせると63.3%となり、「満足している」「どちらかという満足している」の合計36.7%を大きく上回り、「満足している」は、わずか7.4%にとどまりました。

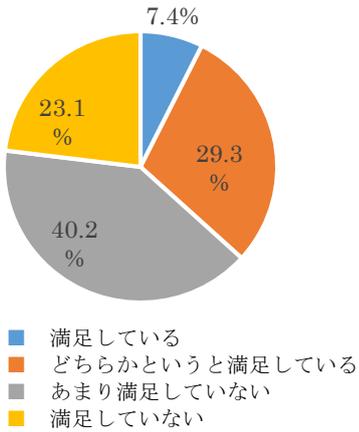
「満足していない」「あまり満足していない」と回答した人が整備を望む施設として、最も多いものが「室内トレーニングルーム」となっています。また「ウォーキング・ジョギング施設」と回答した割合も高く、健康の増進や体力の向上に関する関心が高いことが伺えます。

「室内トレーニングルーム」については、20代から60代の幅広い年代においてその割合が高く、これらの世代においては、場所や時間の制約がない個人で活動ができる場所を必要としているものと思われます。さらに「ウォーキング・ジョギング施設」においては、50代から6代にその割合が高くなっており、50代については同様の理由、60代においては、退職後に気軽に始められる活動を望んでいるものと考えられます。

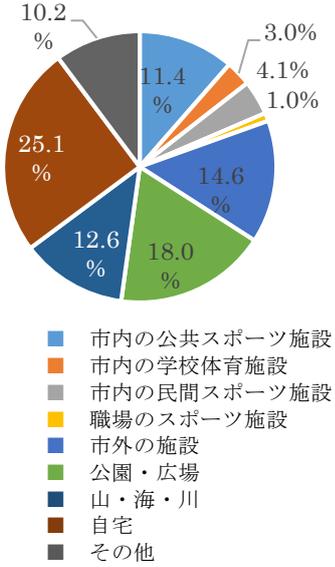
市民がスポーツ活動に利用する施設で最も多い回答は「自宅」であり、次いで「公園・広場」となっています。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛や密を避けるなどの対策によるものと考えられます。「市内の公共スポーツ施設」は11.4%、「市内の学校体育施設」については、全体の3.0%にとどまっており、社会体育施設の紹介や学校体育施設開放事業の周知等を充実させることにより、これらの施設の利用促進を図る必要があります。市民に対し「スポーツ活動の場所の提供」という課題に対して、積極的に働きかけることが必要です。

以下、グラフの詳細は「第4章 資料編」を参照

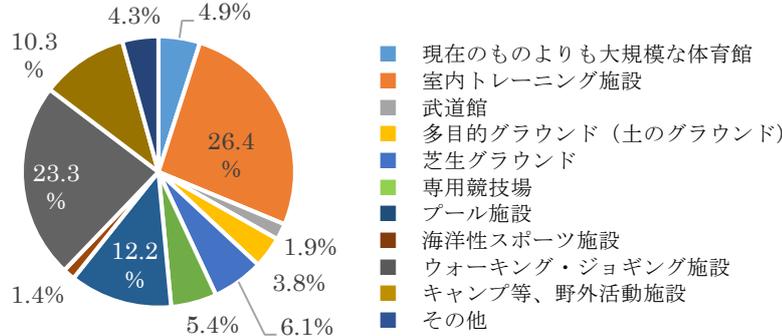
市内スポーツ施設の満足度



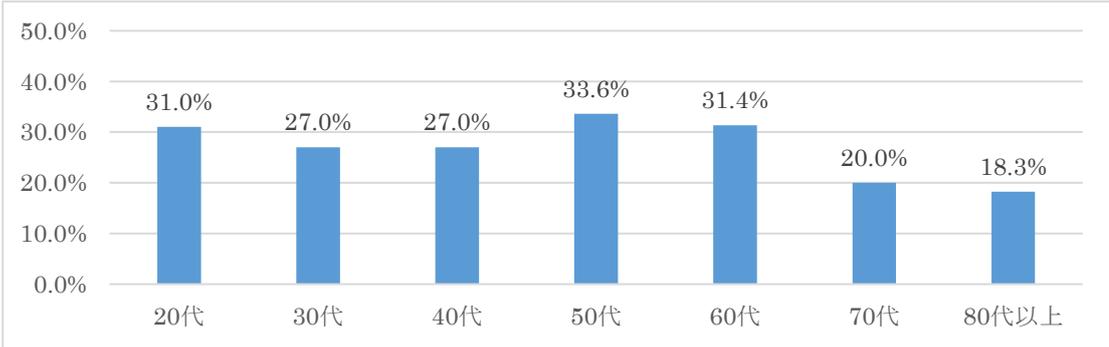
市民がスポーツ活動に利用する施設等



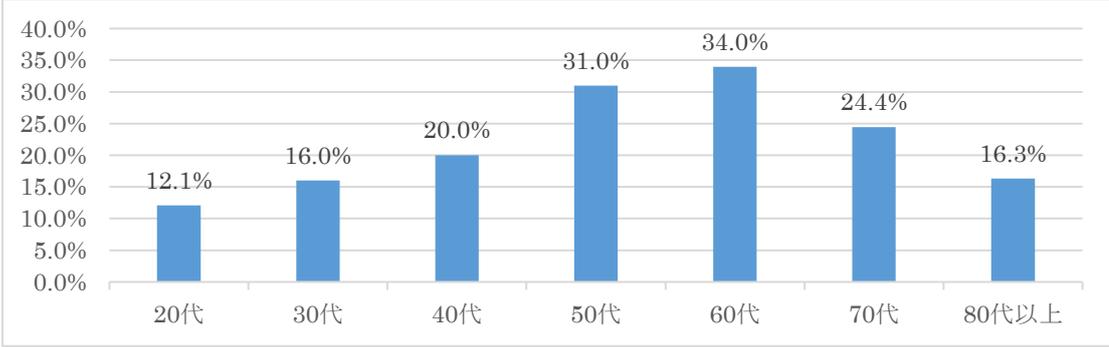
市民の望むスポーツ施設



「室内トレーニングルーム」と回答した年代別割合

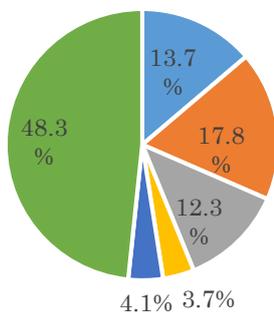


「ウォーキング・ジョギング施設」と回答した年代別割合



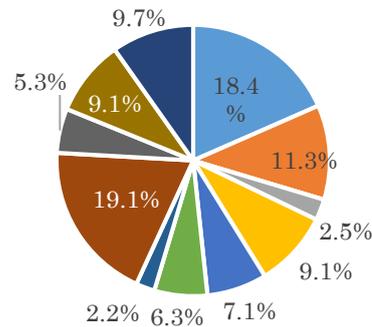
スポーツ活動の機会の提供については、瀬戸内市体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブゆめりくクラブ、B&G 瀬戸内海洋クラブ等と連携し、その提供に努めていますが、アンケートによると「スポーツ活動をしていない」という割合は 48.3%に上ります。そのうち「機会がない」と回答した方は 19.1%になり、このことは、「スポーツ活動の機会の提供」について十分に周知ができていないことを示しています。スポーツ活動の場所の提供と併せて、各種大会、教室、講習会、イベント等の周知の徹底を図ることが必要であることを示しています。

市民のスポーツ活動の頻度



- 週に3回以上
- 週に1~2回
- 月に1~3回
- 3カ月に1~2回
- 年に1~3回
- していない

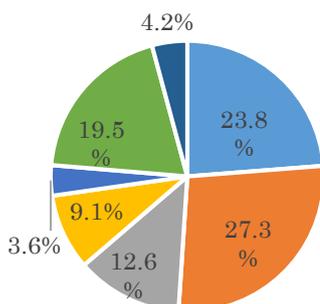
スポーツ活動をしていない理由



- 仕事が忙しい
- 家事・育児が忙しい
- 家族の介護が忙しい
- 場所や施設がない
- 指導者がいない
- 金がかかる
- その他
- 家事・育児が忙しい
- 体力に自信がない
- 仲間がいない
- 機会がない
- 好きではない

さらに、市民が必要としている情報として、「スポーツサークル・クラブ等の情報」は要望が高く、「公共スポーツ施設・設備に関する情報」「公共スポーツ施設の利用に関する情報」に次いで第3位となっています。このことは、スポーツ活動の機会の提供として、大会や教室、講習会等の情報とあわせて、各施設で活動しているサークルやクラブの情報の提供に努めなければならないことを示しています。スポーツの日常化を促進するうえでも、スポーツサークルやクラブの情報提供は必要不可欠なものとなります。

市民が必要としている情報



- 公共スポーツ施設・設備に関する情報
- 公共スポーツ施設の利用に関する情報
- スポーツ大会や教室等の開催情報
- 講習会・研修会に関する情報
- スポーツ指導者に関する情報
- スポーツサークル・クラブの情報
- その他

2) 学校体育施設の開放の推進

① 学校体育施設の開放の現状

瀬戸内市では、小学校 9 校、中学校 3 校とすべての小中学校において学校体育施設開放事業を行っています。小学校においては、体育館、運動場、中学校においては、体育館、格技場、運動場を開放しています。

利用状況は、小学校では、体育館は平日の夜間及び土日祝日、運動場は土日祝日において定期利用されています。また、中学校では、学校部活動との関係で運動場については定期的に利用せず、体育館、格技場については夜間のみの定期利用となっています。ただし、定期の利用ではない大会・イベント等については、土日祝日等の開放を行っています。

② 学校体育施設の開放の課題

学校体育施設は定期的なスポーツ活動の場として、施設の定期利用団体により利用されていますが、施設によっては定期利用が可能な空き時間帯等もあるため、定期利用団体の育成支援と併せ、積極的な利用促進が必要です。

③ 学校体育施設の開放に関する施策の展開

学校体育施設開放事業については、定期利用団体等を育成・支援することにより、市民のスポーツの日常化に努めます。また、社会体育施設と連携した利用により、多くの大会・イベント等に対応できるようにします。

④ アンケート結果による考察

前述のとおり、「市民がスポーツ活動に利用する施設」のアンケートにおいて、学校体育施設は 3.0%と全 9 項目（その他を含む）のうち第 8 位となっています。利用が可能な空き時間等の情報提供による利用促進と併せて定期利用団体等を育成するための支援が必要です。



瀬戸内市邑久スポーツ公園・瀬戸内市邑久B & G海洋センター

2 多様なスポーツ活動の支援

市民がそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて安全にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参加できるよう、市民のライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。

また、目的に応じて市スポーツ推進委員や市B&G指導者会の指導者等を派遣することにより、ニュースポーツや海洋性スポーツの普及に努め、さまざまなスポーツ活動を支援します。

1) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

① 幼児期の運動遊び等の推進

【施策の目標】

- 幼児期からの運動遊びに親しむ習慣づくりと体力の向上

【現状と課題】

社会環境や人々の生活様式が大きく変化してきたことにより、子どもにとって遊ぶ場所、仲間、時間などが変化し、遊ぶ機会の減少を招いています。このことはその後の児童期、青年期における運動やスポーツに親しむ習慣の阻害につながり、子どもの心の発達に大きな影響を及ぼすことにもなりかねません。幼児期において、遊びの中で身体活動を十分に行うことは多様な動きを身につけ、生涯にわたって健康を維持し、豊かな生活を送るための基盤となります。

このため、幼児の心身の発達の特性に留意しながら幼児が多様な運動を経験できる機会を提供していくことが重要となります。また、文部科学省の実施した「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する研究調査」において、保護者の運動経験や運動習慣、体力に対する自信が子どもの運動実践状況と関連していることを明らかにしています。

このことから、幼稚園や保育園などでの運動の実践はもとより、家庭あるいは地域の中で遊びを通した運動の実践を行う場所と機会の提供、安全に多様な身体活動を行うことができるプログラムの提供などが課題となっています。

【今後の施策の展開】

幼児期に獲得しておきたい基礎的な動きには、立つ、座る、寝転ぶ、起きる、回る、転がる、渡る、ぶら下がるなどの「体のバランスをとる動き」、歩く、走る、はねる、跳ぶ、登る、降りる、這う、よける、滑るなどの「体を移動する動き」、持つ、運ぶ、投げる、捕る、転がす、蹴る、積む、漕ぐ、掘る、押す、引くなどの「用具などを操作する動き」が挙げられます。これらの動きは適切な運動経験を積むことによって、無駄な動きや過剰な動きが減少して動きが滑らかになり、目的に合った合理的なものとなります。

幼児期にこのような動きを獲得するためには、多様な動きが経験でき

るように様々な遊びを取り入れること、楽しく体を動かす時間を確保すること、発達の特性に応じた遊びを提供することが重要となります。

そのために、幼稚園や保育園等と連携し、遊びを通した運動の場所と機会を確保します。また、体を動かすことが幼稚園や保育園などでの一過性のものとならないよう、家庭や地域に情報を発信し、保育者だけではなく、保護者等も共に体を動かす時間が確保できるよう支援します。

さらに、地域の行事やイベント等を通じて幼児が運動遊びに親しむ機会を得るために、公民館やスポーツ施設等において「親子で参加できる運動・スポーツ体験」等の事業を開催し、スポーツ活動の機会を提供します。

② 青少年期のスポーツ活動の推進

【施策の目標】

- 運動習慣が身につけていない又はスポーツが苦手な子どもを運動好きにするためのきっかけづくり

【現状と課題】

青少年期は、幼児期とともに生涯にわたる心身の基礎を築く重要な時期です。青少年期のスポーツ活動は、生涯にわたる健康や体力の基礎を培うとともに公正さや規律を尊ぶ態度や克己心を培うためにも重要です。文部科学省が実施した「体力・運動能力調査」でも中学校、高等学校、大学時代のいずれかに運動部活動に加入していた人は、運動部活動をしていない人よりも、大人になってからの体力が高い水準となっていることが示されており、生徒、学生時代の経験が、その後の運動・スポーツ習慣につながり、高い体力水準を維持することに寄与していると推測されます。

また、岡山県が実施した「岡山県民の健康・体力・スポーツに関する調査」の結果では、学校の体育の授業、部活動以外で少年期におけるスポーツ活動の場は、スポーツ少年団が18.4%と最も高いという結果が出ています。瀬戸内市のスポーツ少年団は10種目17団（令和3年度）あり、多種多様な活動が行われていますが、近年では、団数及び団員数が減少傾向にあり、小学生の加入率も減少傾向にあります。このため、活発な少年団の組織づくりなど、団員数の増加に向けた取り組みが必要となっています。

【今後の施策の展開】

青少年期では、スポーツをする子どもとしない子どもの二極化が進行しています。これは、子どもを取り巻く社会環境の変化によりスポーツをする機会、身体を動かす機会が減少したこと、さらに、当市では豊かな自然環境に恵まれているものの、これらを活かした遊びなどの体験活動が減少していることも要因のひとつと考えられます。

したがって、当市の豊かな自然環境を活かした体験型の活動を推進するとともに、豊かな感性を養い、青少年の健全な育成を行うための環境

を整備します。

また、スポーツ少年団を中心とする少年期のスポーツ団体においての活動は、少年期のスポーツ活動の中心的役割を果たしていることから、少年スポーツ団体への効果的な支援を行います。

「スポーツ＝競技」といった先入観は、運動嫌いな子どもを育て、やがては運動嫌いな大人になります。「スポーツ＝身体活動による楽しみ」であることを体験させるため、スポーツ少年団やスポーツ施設定期利用団体等の単一種目を中心としたスポーツ団体においても、レクリエーション活動や体験活動を通して様々な身体活動を行うことにより、バランスの良い成長を促す必要があります。

また、中学校、高等学校の運動部の活動においても、体育協会等と連携して地域指導者が積極的、継続的に関わることのできる仕組みづくりを進め、地域との関わりの中で多角的なスポーツ活動の実践を推進します。

【アンケート結果による考察】

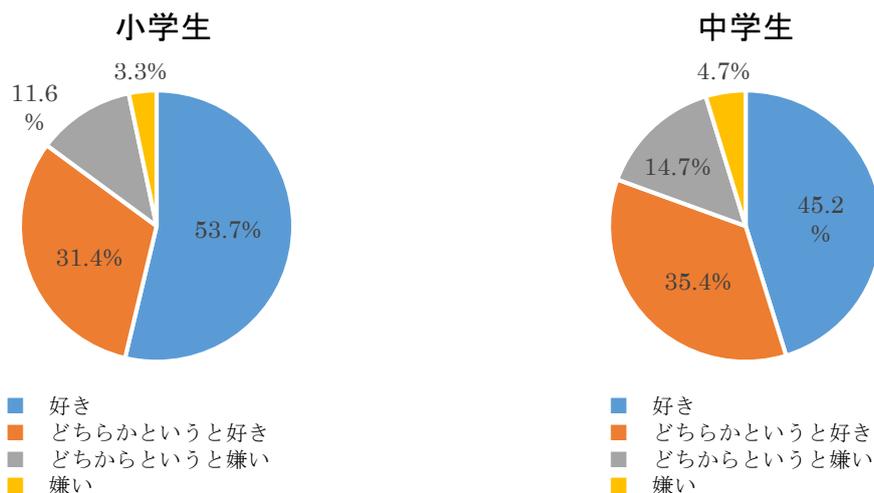
瀬戸内市内の小中学生を対象としたアンケート結果によると、運動・スポーツをすることが「好き」または「どちらかというが好き」と答えた児童・生徒は小学生では 85.1%、中学生では 80.6%と高い値を示しました。また、学校の体育の授業以外に運動・スポーツを実践しているかどうかについても小学生で 77.4%、中学生で 80.3%が実践しているという結果となっています。

活動の場としては、小学生では「ひとり、または、家族」が最も多く、次いで「スポーツクラブなど」「スポーツ少年団」となっています。岡山県の調査結果では、スポーツ少年団が最も高い割合を示していますが、瀬戸内市では、第3位という結果となっています。児童・生徒のスポーツ活動の場として、スポーツ少年団活動を活発化させ、活動の機会を充実させる必要があります。また、中学生では、「部活動」が最も高い割合を示し、全体の5割以上を占めています。学校と社会体育行政の連携を強固にし、部活動を含め、中学生のスポーツ活動をさらに充実させることが必要です。

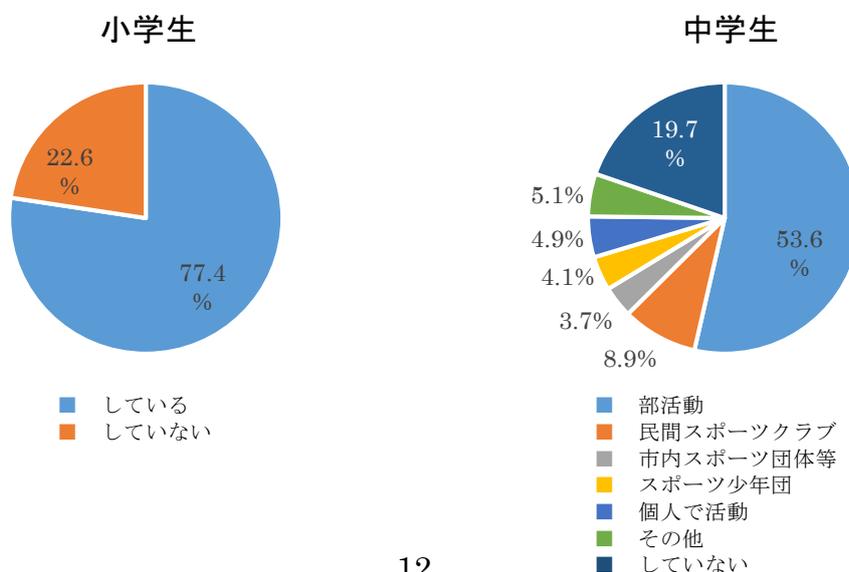
また、小学生では、現在行っている運動・スポーツを中学生になっても続けたいかとの問いに対し、80.7%の児童が「続けたい」「できれば続けたい」と回答しており、「ちがう運動・スポーツがしたい」と回答した児童も 10.5%でした。この結果から、中学生になっても運動・スポーツを行いたいと希望している児童の割合は 91.2%になります。一方、中学生では、現在行っている運動・スポーツを始めたのはいつからかとの問いに対し、「中学生になってから」と回答した生徒の割合が 45.4%と最も高く、次いで「小学校 1～2 年生」「小学校 3～4 年生」の順となっています。スポーツを実践するためのアプローチは小学生では低学年、中学生では入学期が効果的であることが分かります。

運動・スポーツをしていないと回答した児童・生徒の「運動・スポーツをしていない理由」は、小学生では「スポーツが好きではない」が35.5%と最も多く、次いで「習い事などで時間がない」が17.8%となっています。中学生でも同様に「スポーツが好きではない」が32.8%と最も多く、次いで「やりたい種目の部活動がない」が多くなっています。これは、小学校まで続けてきたスポーツの部活動が校区の中学校にないなどの理由が挙げられます。この背景には、生徒数や教職員数の減少があり、競技人口の少ない種目では部員が減少するとともに、部活動の顧問が不足することで、部活動を維持することが困難になる状況があるためです。しかしながら、運動・スポーツを実践していない児童・生徒の最も多くが「スポーツが好きではない」という結果であることから、幼児期から運動遊びに親しみ、身体活動の楽しさを味わうとともに、小学校期、中学校期においてスポーツの嫌いな児童・生徒を減少させていく取り組みが必要です。

運動・スポーツの好き嫌い

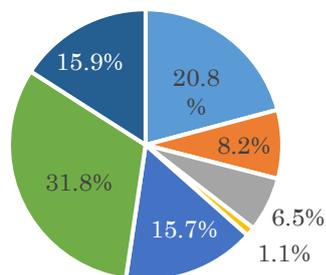


体育の授業以外の運動・スポーツの実践状況



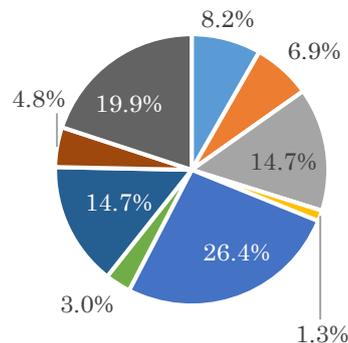
体育の授業、部活動以外の運動・スポーツの活動団体等

小学生



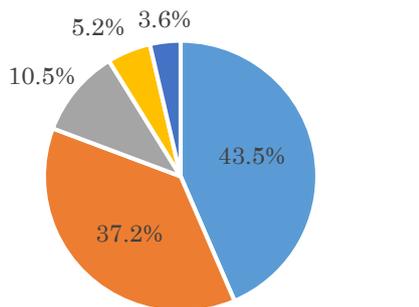
- スポーツ少年団
- 社会体育施設の定期利用団体
- 学校体育施設の定期利用団体
- 地区の子ども会
- スポーツクラブなど
- ひとり、または、家族
- その他

中学生



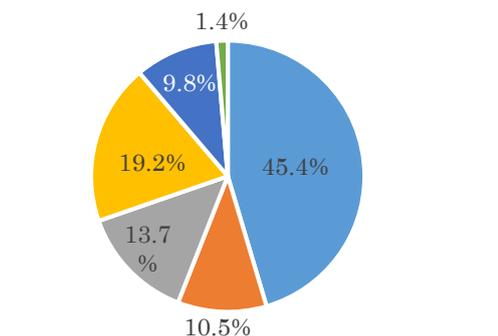
- 社会体育施設の定期利用団体
- 学校体育施設の定期利用団体
- スポーツ少年団
- 民間のスポーツクラブ
- 市外のスポーツ団体
- 所属なし
- 総合型地域スポーツクラブ
- その他の市内任意団体
- その他

運動・スポーツの継続の希望（小学生）



- 続けたい
- できれば続けたい
- ちがう運動やスポーツがしたい
- できれば運動やスポーツをやめたい
- その他

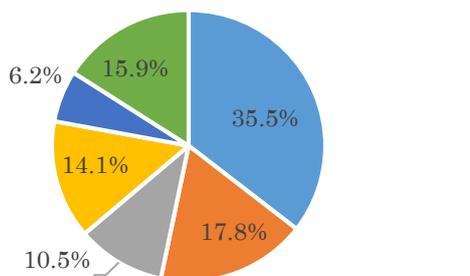
運動・スポーツを始めた時期（中学生）



- 中学生になってから
- 小学校5～6年生
- 小学校3～4年生
- 小学校1～2年生
- 幼児期
- わからない

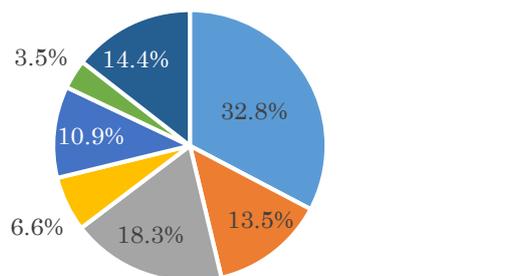
運動・スポーツ活動を実施していない理由

小学生



- スポーツが好きではない
- 習い事などで時間がない
- やりたい種目のグループなどがいない
- スポーツをする仲間がいない
- やりたい種目の場所や施設がない
- その他

中学生



- 好きではない
- 学習塾等で時間がない
- やりたい種目の部活動がない
- やりたい種目の団体・サークル等がない
- やりたい種目の場所や施設がない
- 同じ種目をする仲間がいない
- その他

③ 成年期のスポーツ活動の推進

【施策の目標】

- 運動不足になりがちな働き盛り世代のスポーツ実施率の向上
- 高齢者にも気軽にできる運動・スポーツの普及

【現状と課題】

成年期において、日常的に運動・スポーツを実践することは、生活習慣病などの疾病を予防し、心身ともに充実した人生を送る基礎となることから、非常に重要な役割を果たします。身体活動・運動の量が多い人は、少ない人に比べて循環器疾患、癌などの発症リスクが低いとされています。また日常的な運動は、高齢者の認知機能や運動器機能などの維持と関係が高いことも明らかとなっています。このことから日常生活の中で運動・スポーツ活動を取り入れることは、成年期の生活習慣にとって重要な位置を占めます。

スポーツ活動の実施率はアンケートの結果から、年代で大きな差は見られないことが分かります。全ての年代の人々がスポーツに親しむための環境整備を進めるとともに、スポーツの重要性の啓発を行うことが求められます。

国のスポーツ基本計画（平成 29 年度）においては、できるだけ早期に成人の週 1 回以上のスポーツ実施率が 65%程度（障がい者は 40%程度）、週 3 回以上が 30%程度（障がい者は 20%程度）となることを目標としており、スポーツに親しむ人の拡大を図るために、運動・スポーツの日常化に関する啓発が必要です。

【今後の施策の展開】

成年期のスポーツ活動を推進するため、瀬戸内市総合計画や岡山県スポーツ推進計画との整合性を図りながら、瀬戸内市体育協会との連携を強化し、各種競技スポーツの教室・講習会、大会等を実施することにより、スポーツ人口の拡大を図り、成年期のスポーツ活動の日常化を推進します。また、市スポーツ推進委員の活動を強化し、ニュースポーツの普及を図ることにより、競技スポーツへの導入とすることはもとより、高齢者等のスポーツ活動も促進します。

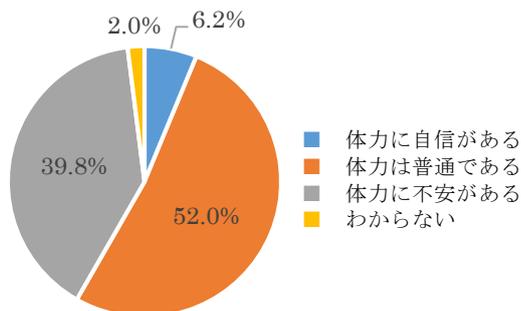
さらに老人クラブや婦人会などの個別の活動にスポーツ推進委員を派遣し、出張スポーツ教室を実施することにより、市民の健康の増進と体力の向上を図ります。

瀬戸内市には岡山県の指定管理施設である「牛窓ヨットハーバー」があり、セーリング種目の施設が充実していることから、牛窓ヨットハーバー及び瀬戸内市B & G指導者会との連携により、海洋性スポーツの普及・振興を図り、特色あるスポーツ活動を推進します。

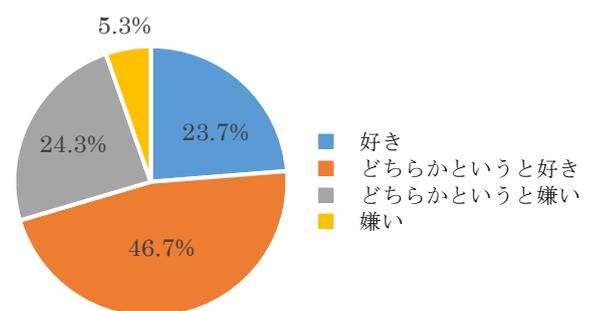
【アンケート結果による考察】

自身の体力について、「自信がある」と回答した人は6.2%、「普通である」と回答した人は52.0%と半数以上が自身の年齢に対して「体力は普通以上」であると感じていることがわかります。しかし、「体力に不安がある」と回答した人も39.8%に上り、高い値を示しています。また、「スポーツをすることが好きですか。」という問いに対し、70.4%の人が「好き」と回答していますが、スポーツの実践についての問いに対しては、48.3%が「していない」と回答しています。このことは、スポーツをしたくてもできない人が多く存在することを示しています。その原因として最も多い回答が「機会がない」であり、次いで「仕事が忙しい」「家事・育児が忙しい」となっています。年齢別に年1回以上のスポーツ活動の実施率を見てみると、80代が最も低い値となっていますが、これは、「医師に運動を止められている」「脚が不自由で運動ができない」など、年齢による体力等の低下や四肢の不自由などが多く挙げられました。その他の世代は50%台に留まっていますが、その中でも50代が最も低い結果となっています。また、月1回以上の定期的活動の実施率を見ても、20代から70代にかけて40%台に留まっています。このことから、全ての世代に対してスポーツ活動の実践を促進する施策が必要であると言えます。

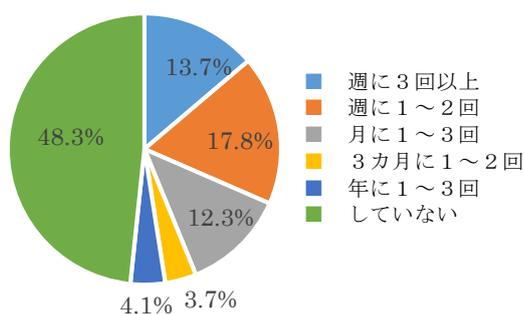
自身の体力について



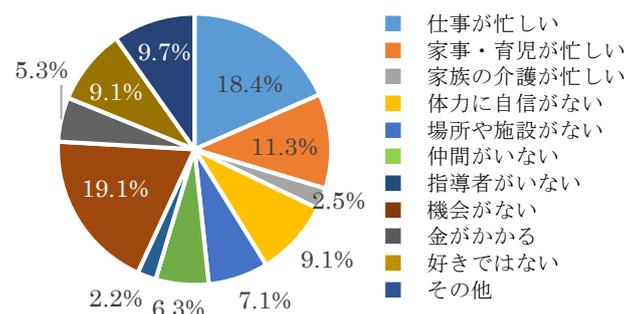
運動・スポーツの好き嫌い



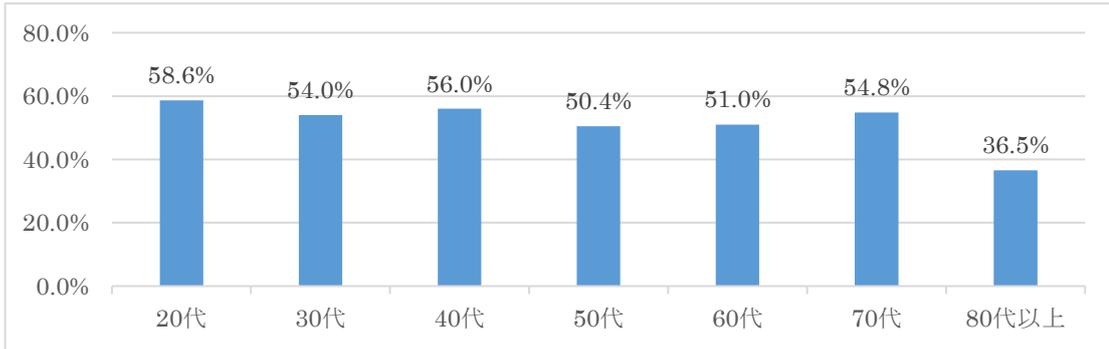
運動・スポーツ活動の頻度



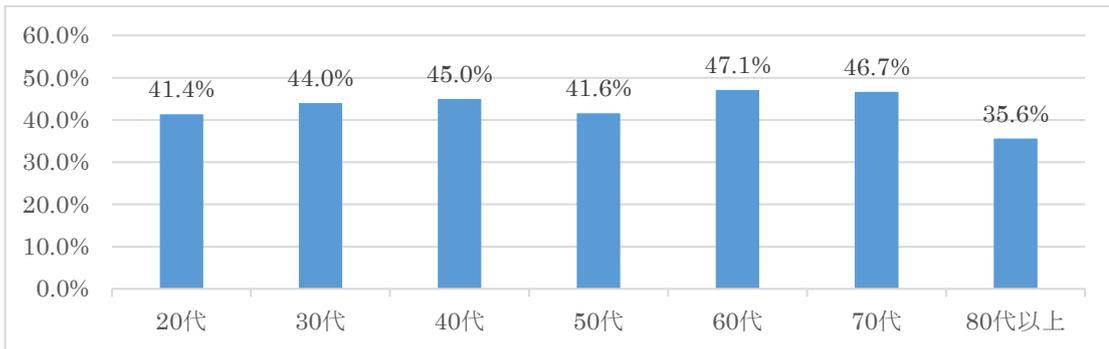
スポーツを実践していない理由



年齢別スポーツ実施率（活動の頻度が年1回以上）

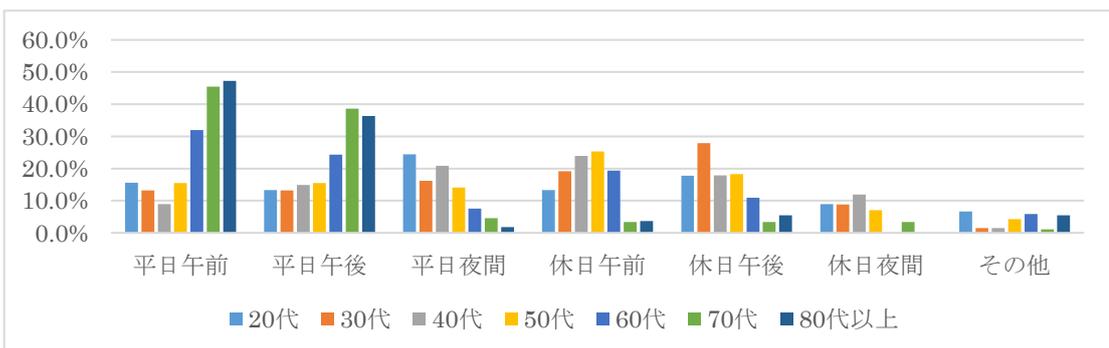
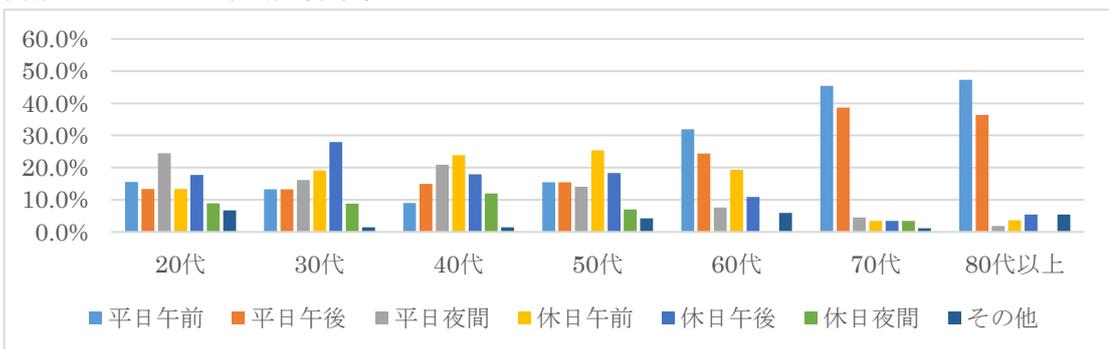


年齢別スポーツ実施率（定期的な活動：活動の頻度が月1回以上）



年齢別にスポーツ活動を実践している時間帯を見てみると、20代から50代では、「平日の夜間」「休日の午前」「休日の午後」が比較的多く、60代以上では、「平日の午前」「平日の午後」が圧倒的に多くなっています。このことから、20代から50代にスポーツ活動を定着させるためには、平日の夜間及び休日のスポーツ環境を整備することが重要となってきます。

年齢別スポーツ活動時間帯



また、現在スポーツ活動を実施している人のスポーツ活動を開始した時期については「成人してから」が全体の68.3%を占め、成人に対するスポーツ活動を開始するためのアプローチは有効であることがわかります。また、過去の運動経験について、スポーツ活動の開始時期は「小学生から」「中学生から」の合計が72.6%を占め、いつまで実施したかについては、「成人まで続けていた」が43.2%を占めます。

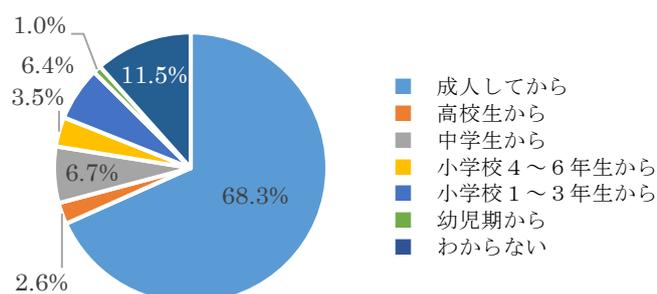
さらに、スポーツ活動の開始時期と継続期間を個別に見てみると、小学生からスポーツ活動を開始した人が成人まで継続している割合は28.5%となっており、最も多い結果は高校生までもなっています。また、中学生からスポーツ活動を開始した人において成人まで継続している割合は34.9%と小学生よりやや多い結果であることがわかります。また、小学生で始めた人の継続期間が小学生期のみである割合は最も低く、小学生で開始したスポーツ活動は一定期間継続されることを示しています。

このことは、定期的・継続的なスポーツ活動を開始するためには、小学生・中学生にアプローチすることが有効であることを示し、この時期に開始した活動は成人になるまで継続されることが多いことを示しています。さらに現在スポーツ活動を実践している人でそのスポーツを成人してから始めた人の過去のスポーツ経験については、78.5%が過去にスポーツ活動の経験を有しています。このスポーツ活動の経験が、成人になってからの新たなスポーツ活動へのチャレンジの基礎となり、成人の定期的・継続的なスポーツ活動の実践につながっていくものと考えられます。

このようなことから、スポーツ少年団や各種少年スポーツ団体、各種施設の定期利用団体、中学校部活動など、青少年のスポーツ活動を支援、充実させることが、成人の定期的・継続的なスポーツ活動の促進につながっていくものと考えられます。このことは、成人のスポーツ活動の充実を図るためには、青少年期のスポーツ活動を充実させることにより、スポーツ活動の経験値を高めることが重要であることを示しています。

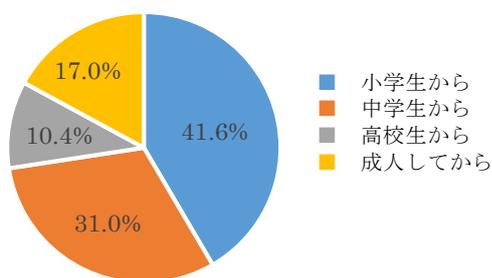
さらに成人のスポーツ活動を促進するため、活動の場所や機会等を充実させることも重要です。

定期的なスポーツ活動の開始時期

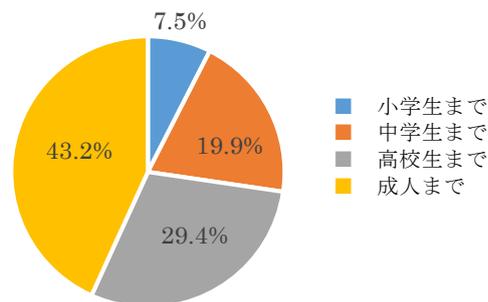


過去の定期的活動経験

※ いつから

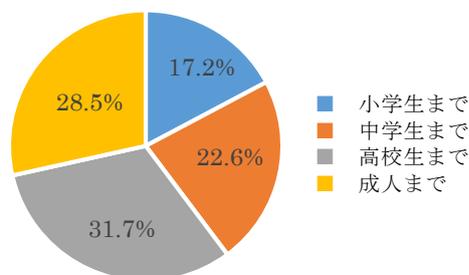


※ いつまで

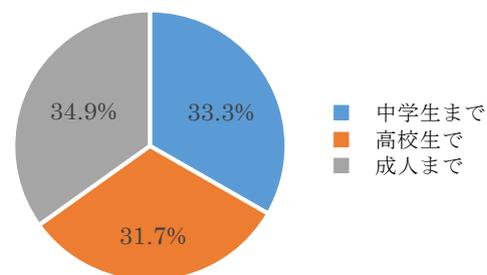


過去の定期的活動継続期間

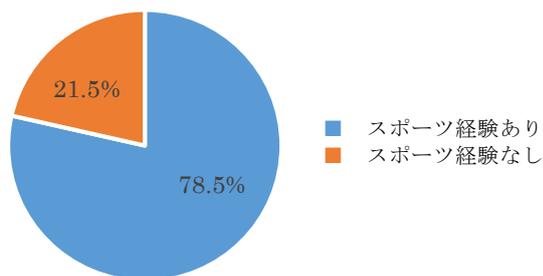
※ 小学生から開始



※ 中学生から開始



現在定期的な活動を実践している人の過去のスポーツ経験

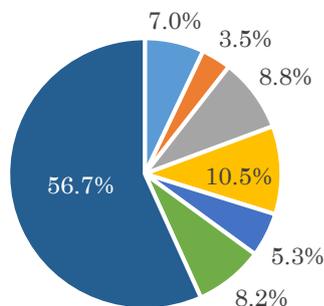


定期的にスポーツ活動を実施している人がどのような団体で活動しているかとの問いに対し、「団体には所属していない」との回答が 56.7% と高い割合となり、前回（平成 28 年度）の調査から 16 ポイント多く、半数以上を占める結果となりました。個人での活動は、ジョギングやウォーキング、水泳など限定的な種目となるため、スポーツサークルやクラブのさらなる育成が必要であり、これらの団体を通じた多様なスポー

ツ活動の実践を促進する必要があります。

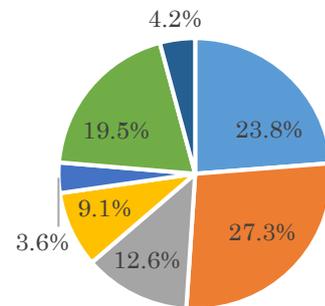
さらに、欲しい情報の問いに対しては、「スポーツ施設の利用に関する情報」「スポーツ施設・設備に関する情報」に次いで「スポーツサークル・クラブ等の情報」が第3位となっており、スポーツ団体、サークル、クラブなどの情報提供が必要であることがわかります。公共スポーツ施設定期利用団体、学校体育施設定期利用団体、その他団体等の情報を取りまとめ、市民に提供することにより、日常的なスポーツ活動の実践を促進する必要があります。このことは、市民が実践したい種目を自ら選択し、実施することができ、より継続的なスポーツ活動の実践へとつながることが期待されます。

スポーツ活動で所属している団体



- 社会体育施設の定期利用団体
- 学校体育施設の定期利用団体
- 民間のスポーツクラブ
- その他市内の任意団体
- 市外の団体
- その他
- 団体には所属していない

スポーツ活動に関し欲しい情報



- 公共スポーツ施設・設備に関する情報
- 公共スポーツ施設の利用に関する情報
- スポーツ大会や教室等の開催情報
- 講習会・研修会に関する情報
- スポーツ指導者に関する情報
- スポーツサークル・クラブの情報
- その他
- その他

2) スポーツ推進委員活動の推進

① スポーツ推進委員の役割

スポーツ推進委員は非常勤の公務員であり、公的性格を有していることから、地域住民のスポーツに関する意思を行政に反映させ、その施策を地域社会の住民と密接に結びつける役割を担っています。このため地域住民のスポーツに関する指導・助言、スポーツ活動の企画立案、指導者・協力者の育成など、地域スポーツ施策の推進や地域住民と行政との調整が重要な役割となっています。

② スポーツ推進委員の技術・技能の活用

市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するために、スポーツ推進委員それぞれの資質の向上を図ります。そのために、市スポーツ推進委員を中国ブロック研修会、岡山県研修会、備前

地区研修会等の各種研修会に派遣することにより、推進委員個人の技術・技能を高めるとともに、市民のスポーツ活動の推進に関する知識を高めます。また、各地域において、地域の実情に合わせたスポーツ活動の実施に関して、スポーツ推進委員がその核となることにより、その技術・技能を十分に発揮し、地域スポーツの推進と充実を図ります。

③ スポーツ推進委員会の組織強化

市スポーツ推進委員は、「瀬戸内市スポーツ推進委員会」を組織しています。委員会は、委員長、副委員長を核として総務部会、事業部会を設置し、さらに各部会の中に係を組織することにより市のスポーツ推進のための施策を実施していますが、各係の役割をさらに明確にすることにより、組織力の強化を図ります。また、スポーツ推進委員会が実施しているスポーツ推進委員定例会を支援することにより、市とスポーツ推進委員会の連携を強化します。

3) 瀬戸内市体育協会活動の推進

① 体育協会の役割

瀬戸内市体育協会は、平成 21 年に特定非営利活動法人瀬戸内市体育協会として法人化されました。当協会は、瀬戸内市における体育・スポーツ活動の普及を図り、市民及び市内在勤者の心身の健全な発達と健康の増進、体力、競技力の向上を目指すとともに、明るく豊かなまちづくりに寄与することを目的としています。したがって、体育協会は多くの教室、講習会、大会等を実施することに加えて、スポーツ活動の価値や意義を広く啓発し、スポーツを通じた市民の豊かな生活に寄与することが重要となっています。

② 市民スポーツ活動の実施と推進

体育協会では、大規模なイベントとして、スポーツフェスティバルを実施することで、ニュースポーツの普及・振興を図り、健康マラソン大会の実施により、マラソンやジョギング、ウォーキング等の日常的な活動のきっかけづくりを推進しています。また、健康教室等を実施することにより、市民の日常的な健康活動の実践に関する機会を提供しています。今後は、高齢者や婦人層、幼児期、学童期など、対象を細分化した事業の実施が期待されます。

③ 競技部会活動の充実と推進

体育協会の専門部は、競技ごとに 17 の部会があり、それぞれの競技部において教室や講習会、大会等が実施され、競技スポーツの普及・振興を図っています。各競技における教室・講習会等の実施は、競技人口の拡大が図られ、また、大会等の実施により、日頃のスポーツ活動の成果を発揮する場を提供することで、市民の日常的なスポーツ活動の実践に大きな役割を果たしています。今後は、市民のスポーツ活動の多様化に対応するため、より多くの競技種目における競技部の充実が期待され

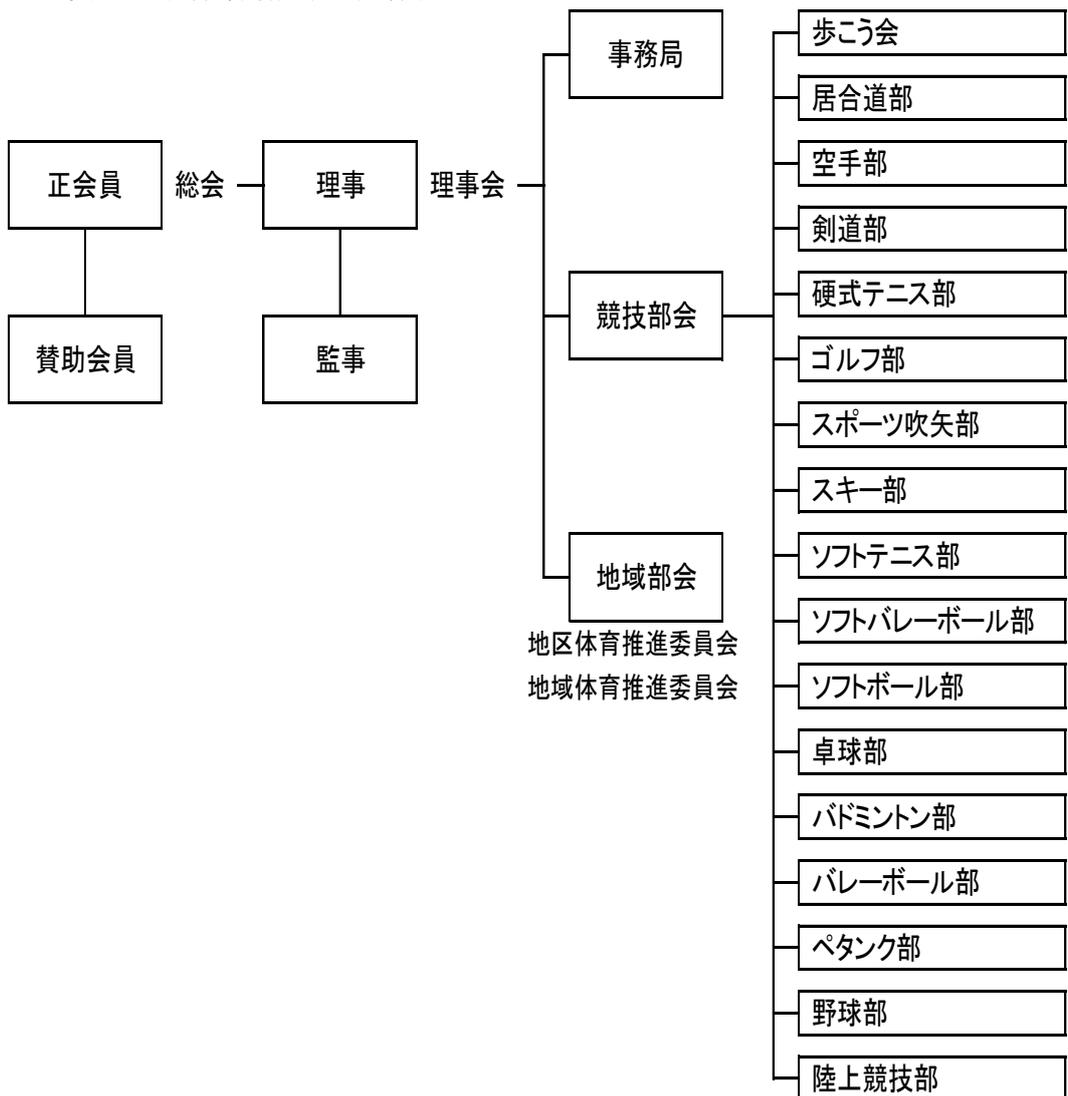
ます。

④ 体育協会の組織強化

体育協会では、全市的な事業は体育協会全体で企画・運営し、各競技における教室・講習会、大会等は各競技部が企画・運営しています。しかし、競技人口の拡大や市民のスポーツの日常化において、各競技部の更なる充実が必要であるとともに、各競技を実践しているクラブや団体と競技部との連携を強化することが必要です。さらに各競技部を自立させることにより、競技ごとの協会や連盟の設立を目指す必要があります。このことは、各競技における県の協会や連盟との連携の強化、他市町村の協会や連盟との連携の強化につながり、市の競技スポーツの推進に大きく寄与します。

また、大規模なイベントであるスポーツフェスティバルや健康マラソン大会などの実施のため、各競技部相互の連絡・調整機能を強化し、体育協会全体としての組織力を向上させる必要があります。

《 瀬戸内市体育協会の組織図 》



4) 瀬戸内市スポーツ少年団活動の推進

① スポーツ少年団の役割と課題

スポーツ少年団は、少年期の健全なスポーツ活動を実践することにより、生涯スポーツの基礎作りを行うとともに、青少年の健全な育成に大きな役割を担っています。しかしながら、瀬戸内市スポーツ少年団では、団数、団員数、加入率ともに減少傾向にあります。スポーツ少年団の団数は、市内全体の児童数が減少する中、同じ競技種目の単位団の合併などにより減少してきました。このことは、身近で行われていたスポーツ少年団の活動が、単位団の合併により自宅から離れた場所での活動となるなど、種目の選択肢を減少させる要因になっているものと考えられます。また、団員の減少は、単位団の合併により、保護者等による活動場所への送迎が必要となるなどの物理的要因も含まれていると考えられます。スポーツ少年団の団員数、加入率等も減少傾向にあることから、積極的かつ効果的なスポーツ少年団活動への支援により、活発な組織づくり、魅力的な少年団活動など、団員数の増加に向けた取り組みが課題となっています。

② 指導者の養成と資質の向上

令和 2 年度から単位団の登録には、「スポーツ少年団の理念」を学んでいる指導者が 2 人以上必要となったことに伴い、指導者の資格取得に向けた支援を行い、安全で魅力ある単位団活動を推進します。また、指導者等研修会を実施することにより、少年期のスポーツ活動の指導に必要な知識、技能の習得を促進します。

さらに、指導者協議会の設置により、異種目における指導者間の連携による組織力の強化を目指します。

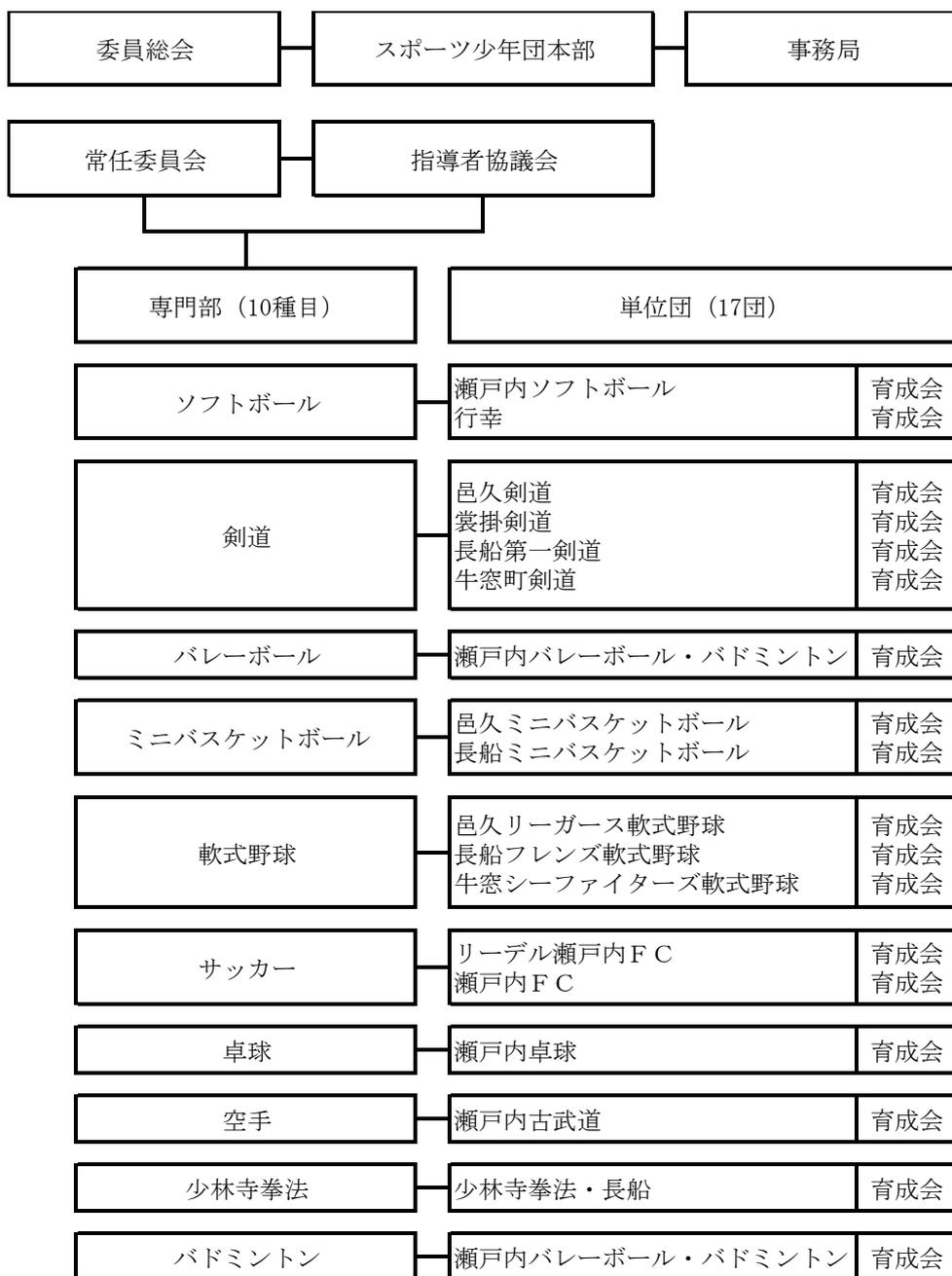
③ 役員・スタッフの支援

役員・スタッフ（育成会）は、スポーツ少年団活動を財政面、労力面、精神面で支援し、少年団活動を充実したものとするため、必要不可欠なものです。このため、役員・スタッフに対する支援を行うことで、単位団活動の充実を目指します。

④ リーダーの育成

リーダーとは、単位団活動を行いながら年少団員のまとめ役や指導者の補助的存在となる団員のことで、単位団活動の充実に大きな役割を果たします。スポーツ少年団では、中学生・高校生が地域で活動することも前提としているため、リーダーの養成を支援し、やがては指導者として単位団の指導に携わることで地域内のスポーツにおける好循環を推進します。

《 瀬戸内市スポーツ少年団の組織図 》



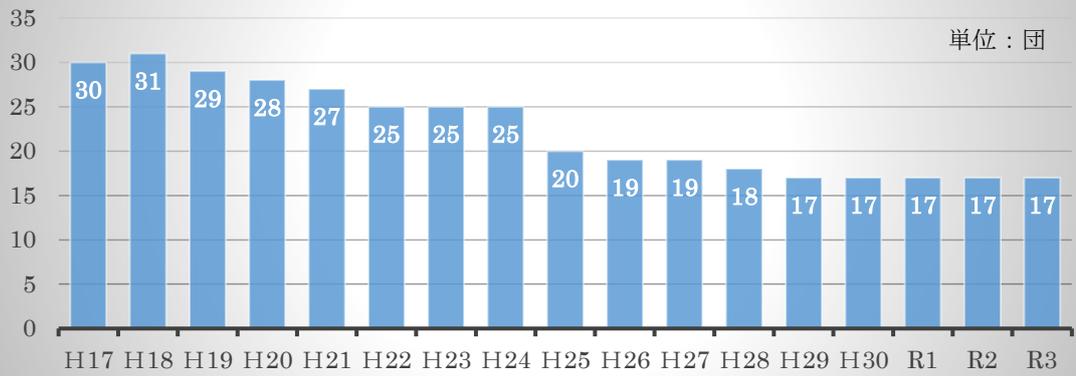
※瀬戸内バレーボール・バドミントンは複合種目型の単位団

《 瀬戸内市スポーツ少年団の団数、団員数、加入率の推移 》

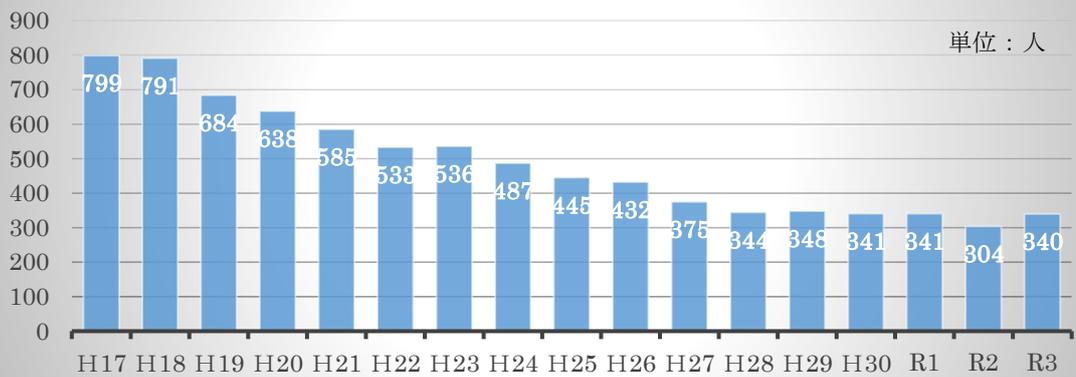
区 分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
団 数 (団)	30	31	29	28	27	25	25	25	20
団員数 (人)	799	791	684	638	585	533	536	487	445
加入率 (%)	34.6	35.4	31.0	28.7	26.5	25.2	25.6	24.3	23.1

区 分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
団 数 (団)	19	19	18	17	17	17	17	17
団員数 (人)	432	375	344	348	341	341	304	340
加入率 (%)	23.1	21.1	19.2	19.4	18.6	18.8	17.0	18.7

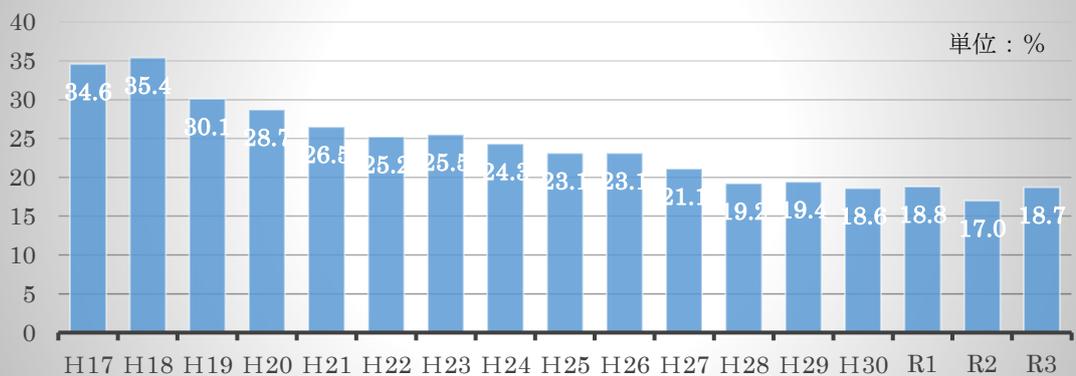
瀬戸内市スポーツ少年団 単位団数



瀬戸内市スポーツ少年団 団員数



瀬戸内市スポーツ少年団 加入率



3 スポーツ団体の支援

市民がそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じてスポーツ活動が実践できるように、市内の各種スポーツ団体の育成に対する支援を行い、スポーツ活動の日常化を促進します。

1) 瀬戸内市体育協会の支援

① 財政的支援

瀬戸内市体育協会は、正会員・賛助会員の会費、大会・教室等の参加負担金、市からの補助金を主な財源とし運営されています。市は体育協会の活動に対し、活動費補助金を交付し、財政的支援を行うことにより、体育協会の運営を円滑にし、各事業の活性化を促進します。

② 側面的支援

瀬戸内市体育協会の組織力の強化に関する情報や各種イベント・大会の運営方法など、体育協会への情報提供等の側面的支援により、円滑な運営を促進します。

2) 瀬戸内市スポーツ少年団の支援

① 財政的支援

瀬戸内市スポーツ少年団本部は、団員・指導者登録料、市からの補助金を主な財源とし運営され、各単位団は、会費、スポーツ少年団本部からの育成費を主な財源として運営されています。市は、スポーツ少年団の活動に対し、活動費補助金を交付し、財政的支援を行うことにより、スポーツ少年団活動の活性化を促進します。

② 側面的支援

瀬戸内市スポーツ少年団の組織力の強化に関する情報や各種イベント・大会の運営方法など、スポーツ少年団への情報提供や運営指導等の側面的支援により、団の円滑な運営を促進します。

3) 総合型地域スポーツクラブの支援

① 既存クラブの支援

瀬戸内市には、市内唯一の総合型地域スポーツクラブの「ゆめりくクラブ」が陸上競技を中心に活動しています。市は、活動場所の提供等の支援を行い、既存クラブの活性化を促進します。

② 新規設立の支援

市は、総合型地域スポーツクラブの設立を目指す団体を支援し、新規のクラブの設立を促進します。

4) B&G瀬戸内海洋クラブの支援

① 財政的支援

B&G瀬戸内海洋クラブは、団員会費、育成会会費、市からの補助金

を主な財源とし運営されています。市は、海洋クラブの活動に対し、活動費補助金を交付し、財政的支援を行うことにより、海洋クラブ活動の活性化と海洋性スポーツ・レクリエーションの普及を図ります。

② 側面的支援

市は、公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（B & G財団）と協力し、B & G瀬戸内海洋クラブの組織力の強化に関する情報やイベント等の運営方法など、情報提供や運営指導等の側面的支援により、円滑な運営を促進します。

③ B & G 指導者会の充実

海洋クラブに対する海洋性スポーツの実技指導、クラブの運営指導は、B & G海洋性スポーツ・レクリエーション指導者の主な役割であるため、B & Gプランの実施により、指導者を計画的に養成し、B & G指導者会を充実させます。また、市と指導者会、B & G財団の連携により、海洋クラブの活動を支援します。

5) 市内各種スポーツ団体の支援

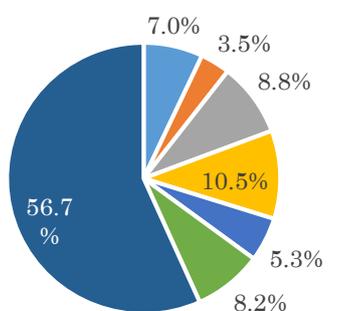
① 社会体育施設・学校体育施設定期利用団体の支援

市内のスポーツ団体は、社会体育施設または学校体育施設を拠点に活動している体育施設定期利用団体を中心に、様々な団体があります。各種スポーツ団体の施設利用については、社会体育施設、学校体育施設の利用調整を図ることにより、効率的な活動の場所と機会の提供を行っています。また、学校体育施設の定期利用については、施設によって空き時間があるため、新規団体の設立を促進するための支援を行い、併せて活動の場所の提供を行います。

② その他のスポーツ団体の支援

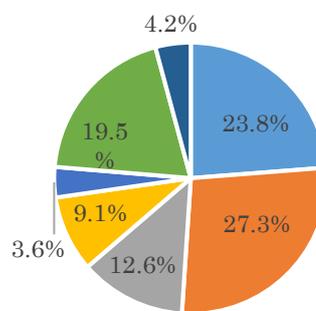
市は、行政や体育協会等との関わりを持たない市内のスポーツ団体の情報収集を行い、団体の育成に関する支援を行います。

所属している団体



- 社会体育施設の定期利用団体
- 学校体育施設の定期利用団体
- 民間のスポーツクラブ
- その他市内の任意団体
- 市外の団体
- その他
- 団体には所属していない

欲しい情報



- 公共スポーツ施設・設備に関する情報
- 公共スポーツ施設の利用に関する情報
- スポーツ大会や教室等の開催情報
- 講習会・研修会に関する情報
- スポーツ指導者に関する情報
- スポーツサークル・クラブの情報
- その他

4 スポーツ指導者・ボランティアの育成

すべての市民が安全に楽しくスポーツ活動が実践できるように、地域スポーツ指導者を育成し、各種研修会等の実施により、資質の向上を図ります。

また、「スポーツを支える」活動を推進するために、スポーツボランティアを育成します。

1) 地域スポーツ指導者の育成

① 青少年期のスポーツ指導者の育成

県が実施した「岡山県民の健康・体力・スポーツに関する調査」の結果では、児童生徒については、学校の体育・部活動以外でスポーツや運動を行う場所については、スポーツ少年団が最も高く、次いで地域のスポーツクラブやチームとなっており、スポーツ少年団が重要な役割を果たしていることがうかがえます。このことから、市では、スポーツ少年団指導者の資格取得を進めるとともに、少年団体指導者等研修会を実施することにより、青少年期のスポーツ指導者の資質の向上を推進します。また、B&Gプランの実践により、海洋性スポーツ指導者の計画的な育成を進め、B&G指導者会の充実を図るとともに、海洋性スポーツ・レクリエーションの普及を図ります。

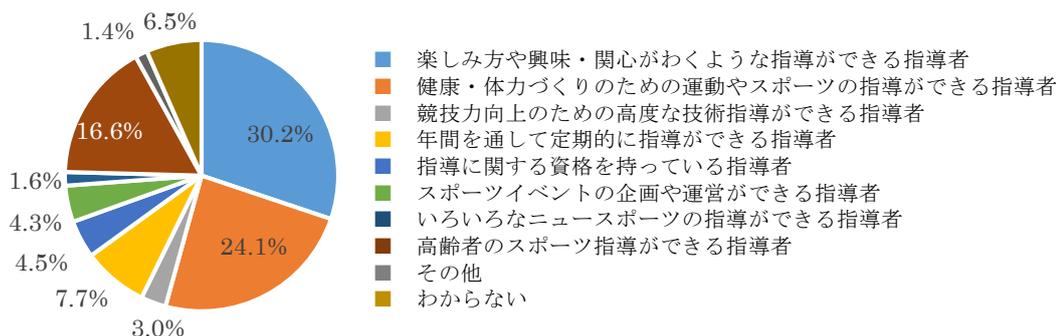
② 成年期のスポーツ指導者の育成

成年期のスポーツ指導に関する需要は、アンケート結果が示すとおり、競技力の向上や高度な技術指導よりもスポーツを楽しみ、興味や関心がわくような指導ができる指導者が求められているため、地域の人材の発掘を進めるとともに、スポーツ推進委員の積極的な活動を推進します。

【アンケート結果による考察】

望む指導者についてのアンケートにおいて、最も割合が高かったものが「楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる指導者」で、次いで「健康・体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる指導者」「高齢者のスポーツ指導ができる指導者」となっています。このことから、競技スポーツの指導者等においても、上記の内容を含んだ指導ができるよう指導者養成講座や講習会等において配慮する必要があります。

望む指導者



2) 地域でスポーツを支えるボランティアの育成

① スポーツを支える意識の醸成

大規模なスポーツイベント・大会等の円滑な運営のためには、イベント・大会等の運営補助を行うスポーツボランティアが必要不可欠です。ボランティアにはイベント・大会等を運営するための補助の他、大会等への参加者や観客に対するサポートなど多くのことが求められます。また、各競技団体に所属している人も審判や役員としてスポーツボランティアの役割を担っています。

県が実施した「岡山県民の健康・体力・スポーツに関する調査」では、成人のボランティア活動に対する回答は、行った 6.0%、ぜひ行いたい 1.3%、できれば行いたい 12.7%の合計が 20.0%で、あまり行いたいとは思わない 33.8%、全然（全く）行いたいとは思わない 16.9%の合計 50.7%を大きく下回っています。

また、市が実施したアンケート結果においても、下記【アンケート結果による考察】のとおり、「行った」と回答した人は県の結果を下回っているものの、「ぜひ行いたい」と回答した人の割合は、県の結果を上回っています。このことから、ボランティア活動に対する意識、スポーツを支える意識を醸成することが必要です。

② スポーツボランティアの育成

市は、スポーツボランティアを育成するため、体育協会やスポーツ少年団等と連携し、大規模なイベント・大会等へのボランティア参加を呼び掛けるとともに、市民がスポーツ活動を通じて地域社会に参加し積極的な役割を得ることができるよう、スポーツボランティアとして活動する機会の提供に努めます。

【アンケート結果による考察】

瀬戸内市のスポーツボランティアについての意識は高いとは言えない状況です。およそ1年間の間に「ボランティアを行った」と回答した人は4.1%、「ぜひ行いたい」と回答した人はわずか1.7%、「できれば行いたい」と回答した人は12.5%で「行った」「行いたい」を合計しても18.3%であり、関心の低さが示されています。

一方、「あまり行いたくない」と回答した人が22.3%、「全く行いたくない」と回答した人が20.2%で、その合計は42.5%となり、高い割合を示しています。

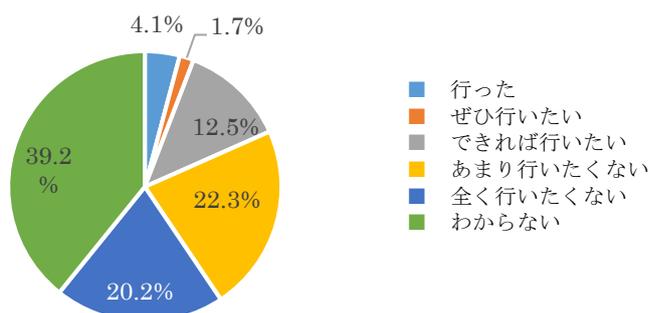
また、「わからない」と回答した人は39.2%と多く、このことは、スポーツボランティアについての認識の低さを示しています。

地域スポーツを支えるという観点からもスポーツボランティアの養成は不可欠であり、「スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える」ための意識の醸成が必要です。

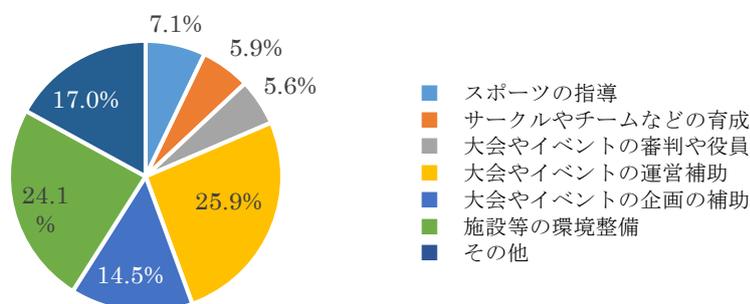
また、中学生のボランティアに対するアンケートにおいても「行っている」が5.6%、「ぜひ行いたい」が10.9%、「できれば行いたい」が17.8%でその

合計は 34.3%と最も高い値を示しています。対して、「あまり行いたくない」「全く行いたくない」を合わせると 31.8%とわずかに「行った」「行いたい」を下回りますが、「わからない」が 34.0%を示しており、スポーツボランティアに対する意識の醸成が不可欠となっています。

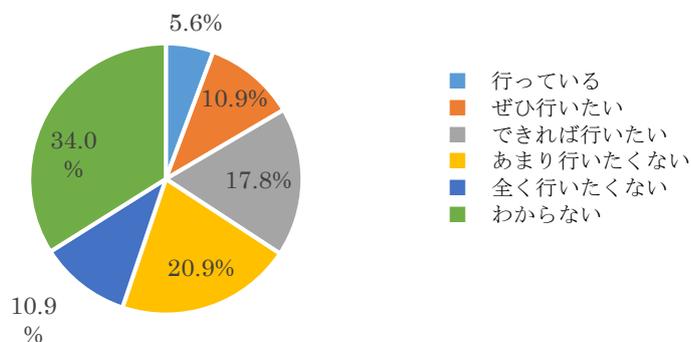
ボランティアに対する意識（一般）



行った、行いたいボランティア（一般）



ボランティアに対する意識（中学生）



5 トップレベルで活躍する選手等の支援

トップレベルで活躍する選手・指導者等を支援することは、次代のアスリートや指導者のモチベーションの向上につながり、自己鍛錬や青少年の健全育成、健康増進など、スポーツが持つ根本的な価値や意義を広く市民が共有し、理解することにつながります。このため、国際大会や全国大会等のトップレベルで活躍する選手・指導者等を積極的に支援します。

1) 国際大会、全国大会等へ出場する選手・指導者等の支援

オリンピックやパラリンピック、その他の国際大会、国民体育大会、全国障害者スポーツ大会、競技種目別の全国大会等に出場する選手、団体、指導者等に対し、激励金の交付などを通して、その活動を支援します。

2) スポーツ表彰制度の整備

国際大会や国民体育大会、競技種目別の全国大会等に出場する選手、団体、指導者等のうち、特に優秀な成績を収めた選手、団体、指導者等に対し、教育委員会表彰を実施していますが、スポーツに特化した表彰制度の整備について検討を行います。

6 スポーツ活動等の情報発信

国際大会や全国大会等に出場する選手の情報などを広く市民に周知することにより、スポーツを「みる」「ささえる」機会の情報提供を行い、市民のスポーツに対する関心を高めます。

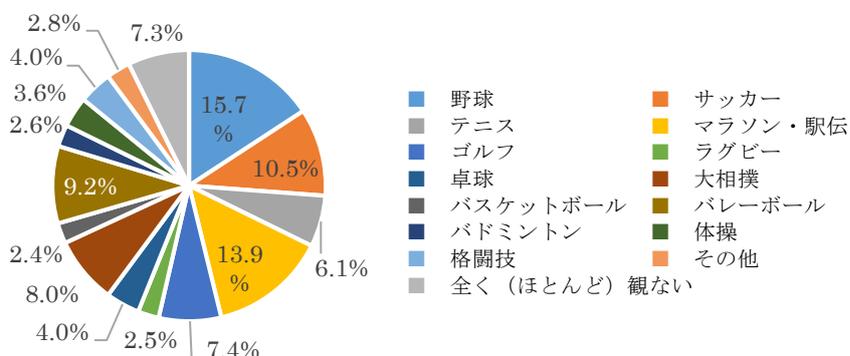
1) 大会情報等の広報

本市のホームページや広報紙等により、市内で開催されるスポーツ大会や市内で活躍している選手の情報などを積極的に周知することで、市民の「みる」スポーツに対する機会を提供します。

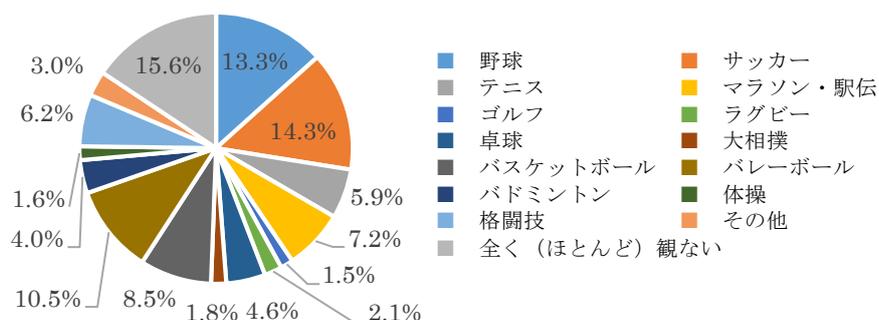
【アンケート結果による考察】

よく観戦するスポーツについてのアンケートでは、20代以上の男女は「野球」「マラソン・駅伝」「サッカー」が、中学生では「野球」「サッカー」「バレーボール」がそれぞれ10%を超える値を示しています。また、スポーツを観戦する理由について、20代以上の男女で44.7%、中学生で29.6%が「そのスポーツが好きだから」と回答しています。今後、多様な形式で開催される国際大会や全国大会等、また、市内で開催されるスポーツ大会やイベントを観戦する機会を提供するため、情報発信を行うことが必要です。

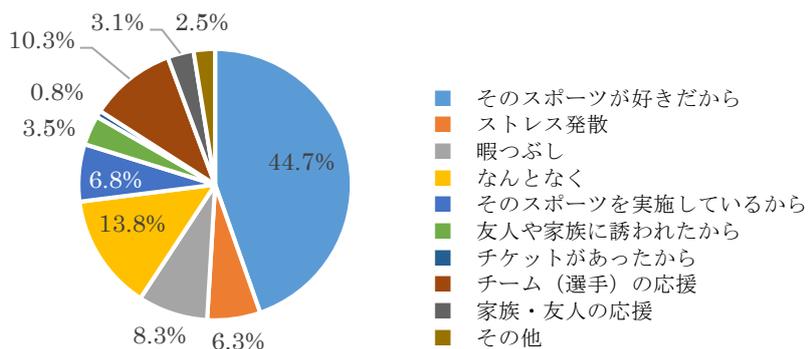
よく観戦するスポーツ（一般）



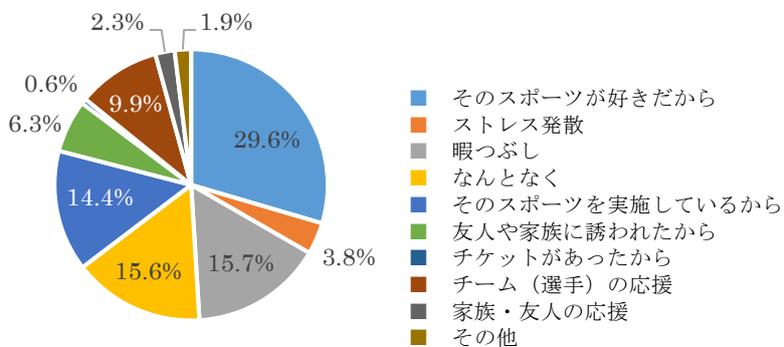
よく観戦するスポーツ（中学生）



観戦する理由（一般）



観戦する理由（中学生）



2) 広域連携による情報発信

岡山県内の8市5町による岡山連携中枢都市圏で協力し、トップチームの支援や大規模なスポーツ大会等の開催情報の発信を行います。

第3章 計画の進め方

1 計画推進の考え方

スポーツ団体、企業、NPO、ボランティア、子どもから高齢者まで、すべての市民が、スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支えるというスポーツ活動にそれぞれの立場で積極的に参加するとともに、互いに協働することによって、市民総参加でこの計画を推進します。

将来像

人と自然が織りなす しあわせ実感都市 瀬戸内

計画の目標

スポーツを通じ健やかに暮らせるまち

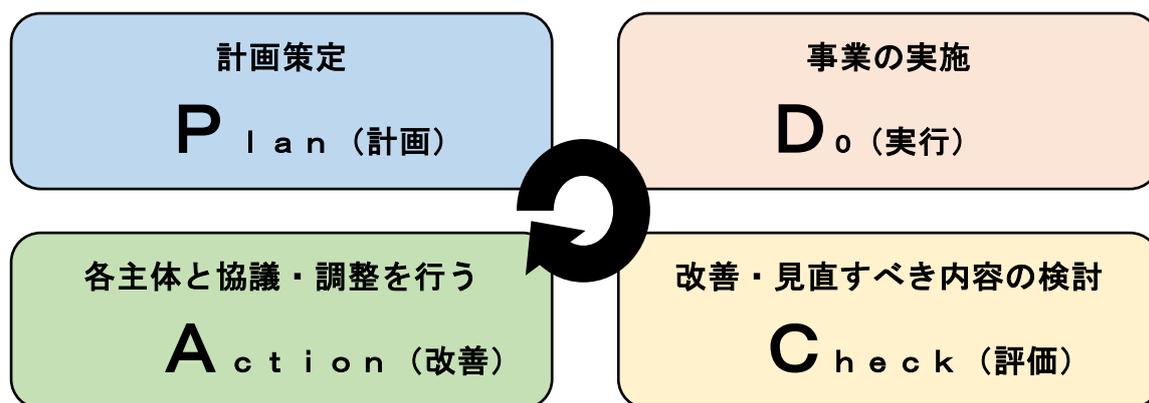


具体的施策の展開

2 進捗状況の管理

計画の推進に当たり、進捗状況の管理は、P D C A サイクル（P l a n（計画）、D o（実行）、C h e c k（評価）、A c t i o n（改善））の改善手法により行います。社会教育課で計画に掲げている施策等の進捗状況を把握し達成度の観点から検証を行った上で、必要な見直しと改善を図ることにより、翌年度の取組に活かしていくとともに、スポーツに関する学識経験のある者からなる瀬戸内市スポーツ推進審議会に報告します。

また、令和3年度には、それまでの計画期間の進捗状況を検証し、6年目以降の施策の方向の見直しを行います。



3 体育協会・スポーツ少年団との連携

市は、体育協会、スポーツ少年団と協力・連携し、市全体の総合的なスポーツの推進が図られるよう努めます。

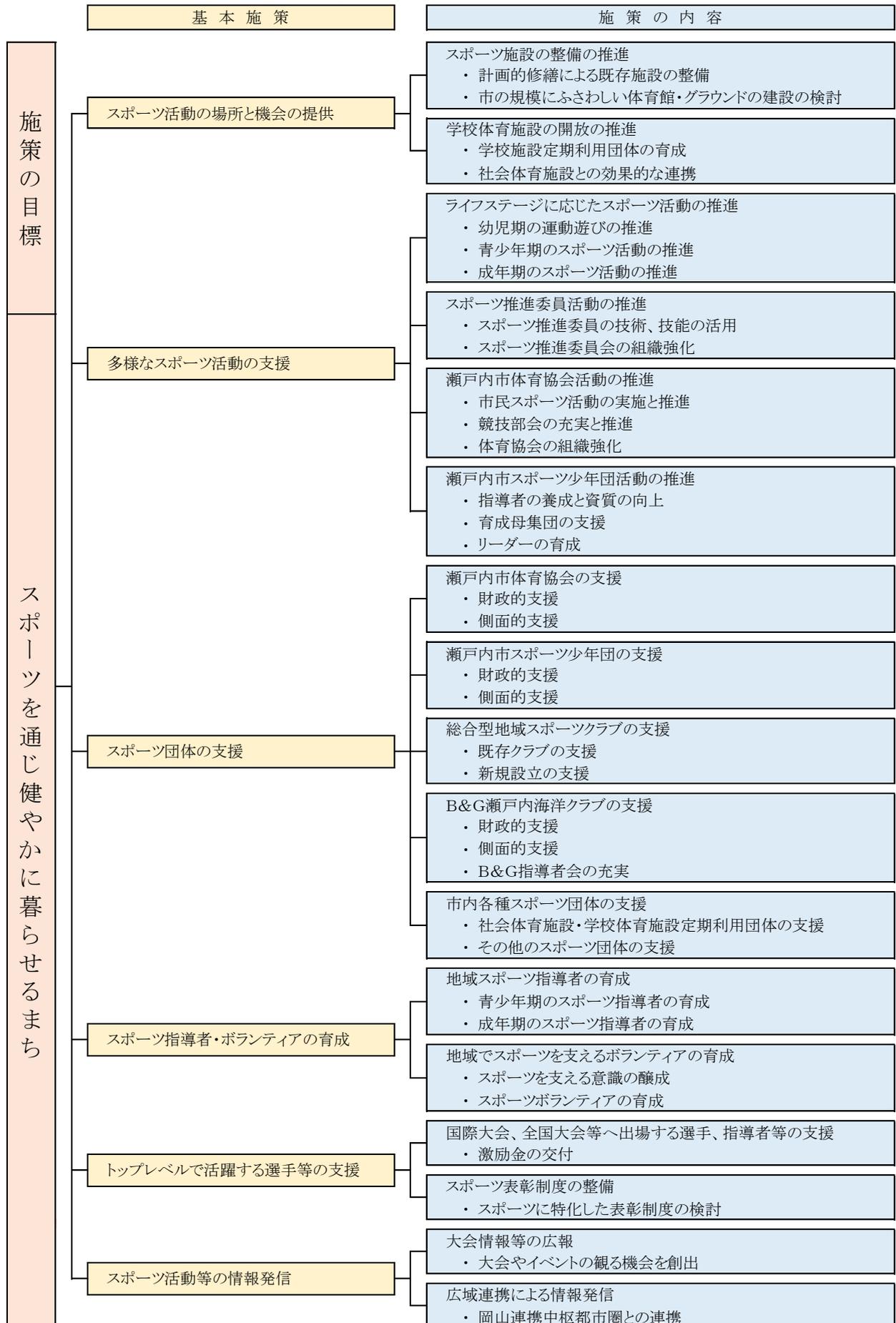
体育協会、スポーツ少年団では、地域の特性に応じた施策を展開するための計画の策定に努めるとともに、市民が運動・スポーツに親しむことができるようにスポーツイベント・大会等の開催や教室・講習会等を充実させることが期待されます。このことにより、すべての市民に対するスポーツ活動の場所と機会の提供など、スポーツ活動の日常化の推進や競技スポーツの発展が期待されます。

4 市民総参加に向けて

計画の目標である「スポーツを通じて健やかに暮らせるまち」の実現のためには、市民総参加でスポーツの推進に取り組むことが必要です。

全ての市民が、スポーツの意義について理解を深め、関心や適性、健康状態に応じてスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支えるというスポーツ活動にそれぞれの立場で積極的に参加し、スポーツ活動を通じて豊かで潤いのある生活に向けた取り組みを心がけることが望まれます。

5 スポーツの推進に関する体系図





第4章 資料編

1 瀬戸内市民のスポーツ活動に関する調査結果

調査の目的

市民の各年代の健康や体力に関する意識やスポーツの実施状況、スポーツ環境の実態等について調査し、現状を把握することにより、「スポーツを通じ健やかに暮らせるまち」の実現に向けた新たな施策の策定をするための基礎資料とするために実施したものです。

調査概要

1) 調査対象者

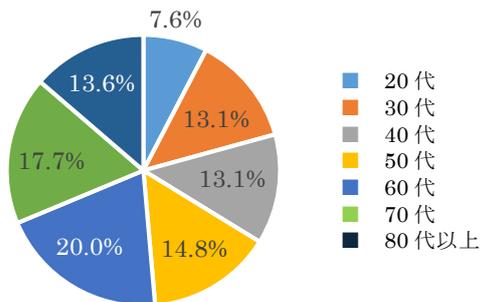
- ① 成人調査 市内に在住の20歳以上で無作為抽出された2,000名
- ② 児童生徒調査 市内各中学校1～3年生865名、各小学校4～6年生984名

2) 有効回収率

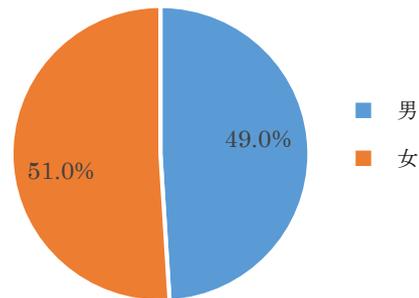
- ① 成人調査 38.2% (763名)
- ② 児童生徒調査 中学生 85.8% (742名)
小学生 93.3% (918名)

● 成人を対象とした調査結果

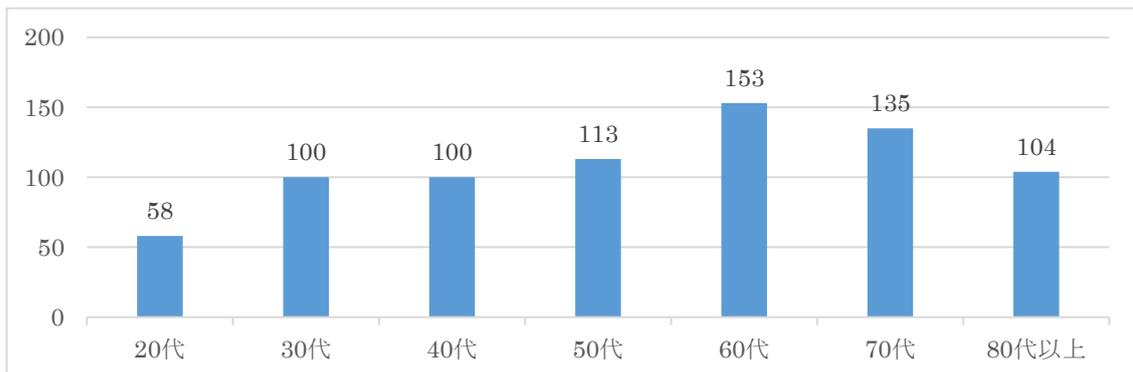
※ 年齢構成



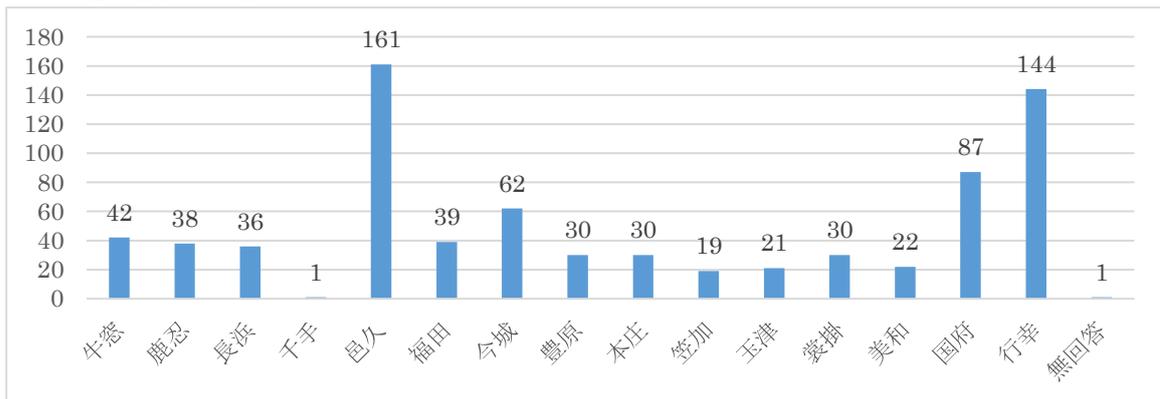
※ 男女比



※ 年齢別回答数

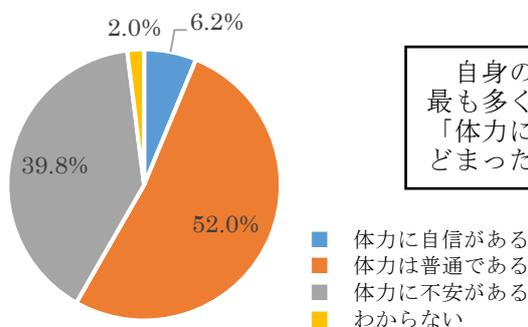


※ 地区別回答数



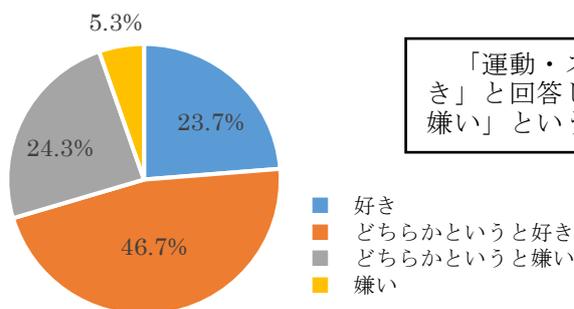
1 スポーツの実施に関するアンケート

1) あなたは、ご自身の体力についてどのように感じていますか。



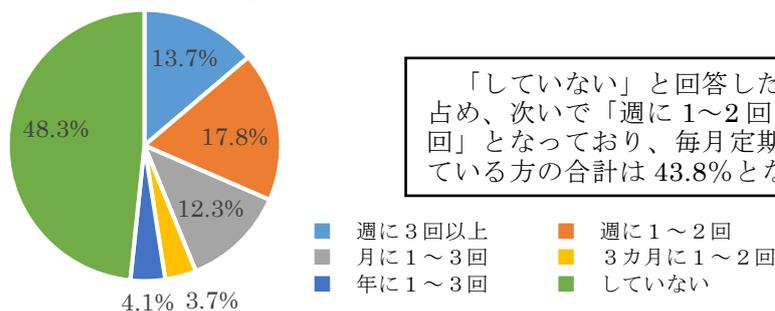
自身の体力については、「普通である」と回答した方が最も多く、次いで「体力に不安がある」となっている。「体力に自信がある」と回答した方は、わずか6.2%にとどまった。

2) あなたは、運動・スポーツをすることが好きですか。



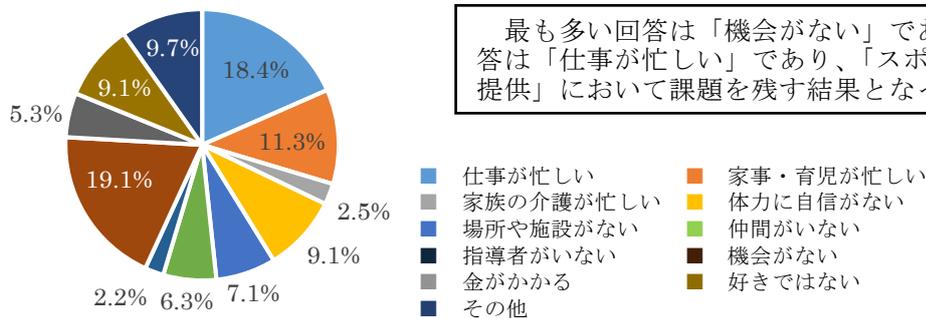
「運動・スポーツが好き」または「どちらかという好き」と回答した方は70.4%で「嫌い」「どちらかという嫌い」という回答を大きく上回った。

3) あなたは、運動・スポーツをどの程度実践していますか。



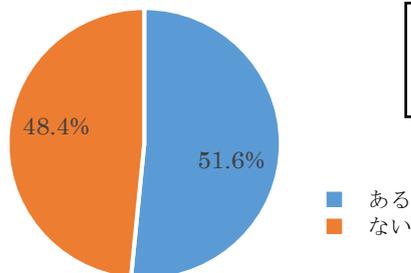
「していない」と回答した方が約半数となる48.3%を占め、次いで「週に1~2回」「週に3回以上」「月に1~3回」となっており、毎月定期的に運動・スポーツを実践している方の合計は43.8%となった。

4) 問3)で「していない」と回答された方にお伺いします。運動・スポーツをしていないのはどのような理由からですか。(複数回答可)



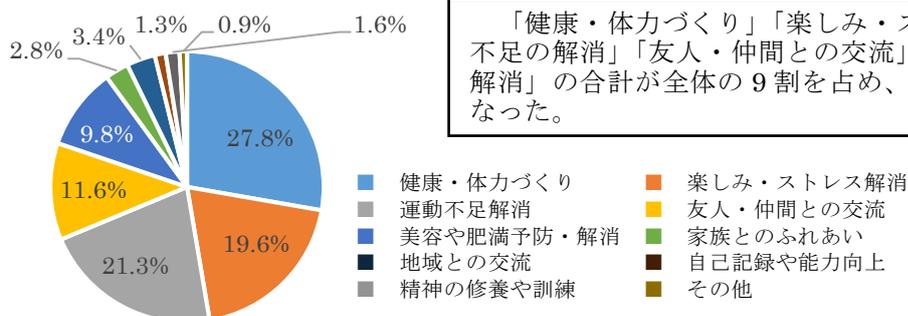
最も多い回答は「機会がない」であったが、次に多い回答は「仕事が忙しい」であり、「スポーツの場所と機会の提供」において課題を残す結果となった。

5) 問3)で「していない」と回答された方にお伺いします。あなたは、今後してみたいと思う運動・スポーツがありますか。



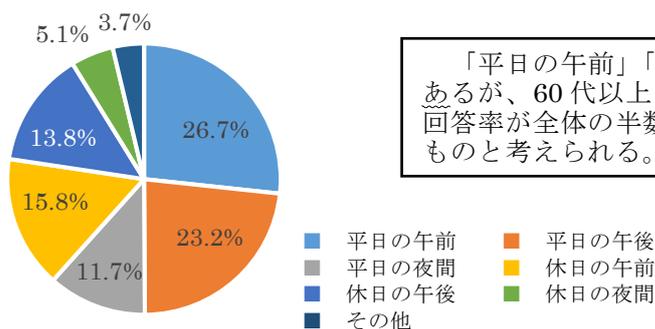
現在、運動・スポーツを実施していない方のうち、半数以上は「してみたい運動・スポーツがある」と回答している。

6) あなたが運動・スポーツをしている(してみたい)のはどのような目的からですか。(複数回答可)



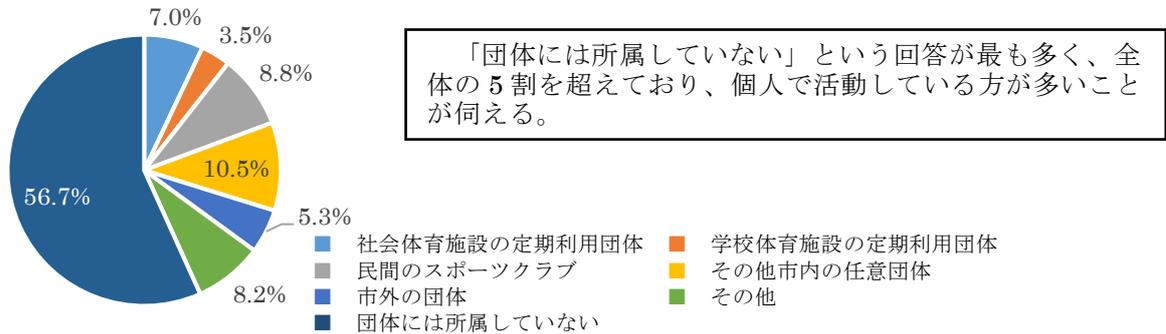
「健康・体力づくり」「楽しみ・ストレスの解消」「運動不足の解消」「友人・仲間との交流」「美容や肥満の予防・解消」の合計が全体の9割を占め、他の項目は少数意見となった。

7) 定期的に運動・スポーツを実施している方にお伺いします。あなたが定期的に活動している時間帯をお答えください。(複数回答可)

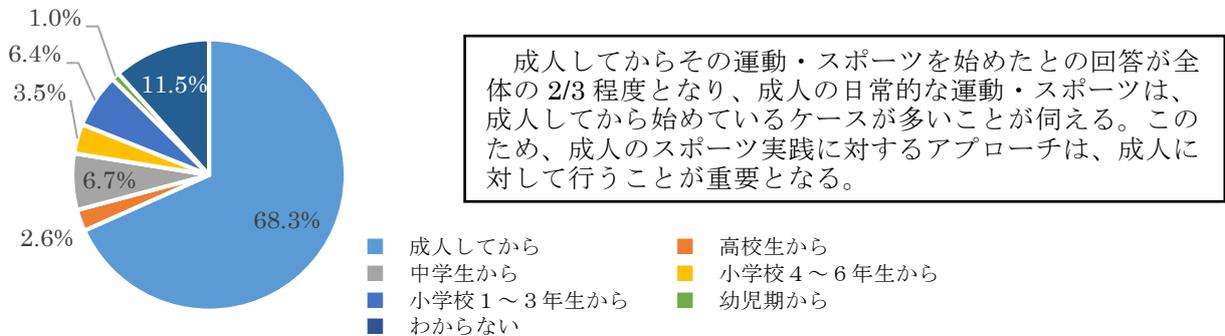


「平日の午前」「平日の午後」を合わせると5割程度であるが、60代以上(定年を迎えたと考えられる年齢)の回答率が全体の半数を超えていることによる影響も大きいものと考えられる。

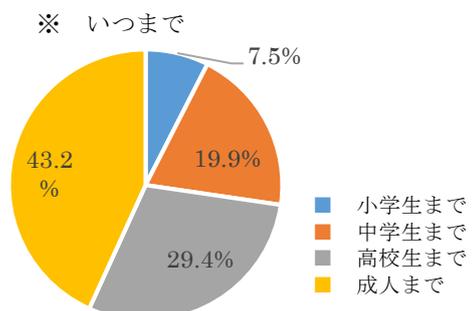
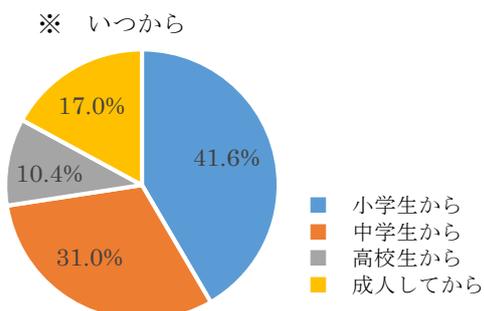
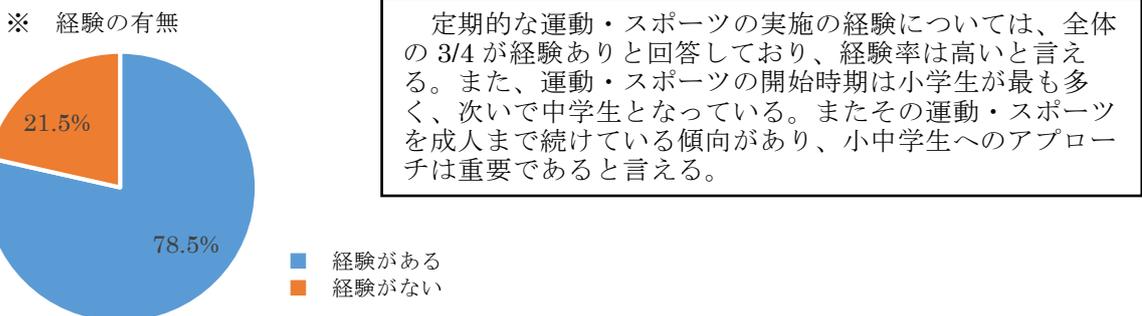
8) 定期的に運動・スポーツを実施している方にお伺いします。所属している団体はどのような団体ですか。(複数回答可)



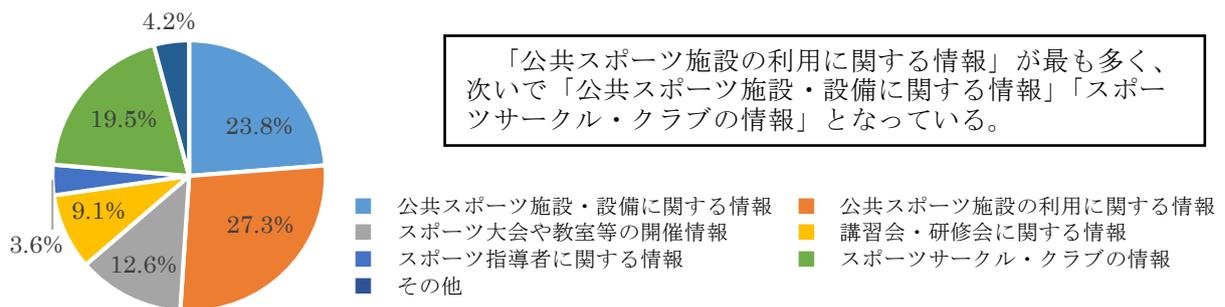
9) 定期的に運動・スポーツを実施している方にお伺いします。あなたが、現在実施している運動・スポーツを始めたのはいつからですか。



10) あなたは、過去に運動・スポーツを定期的に実施していた経験がありますか。またそれはいつからいつまでですか。現在実施している運動・スポーツ以外でお答えください。

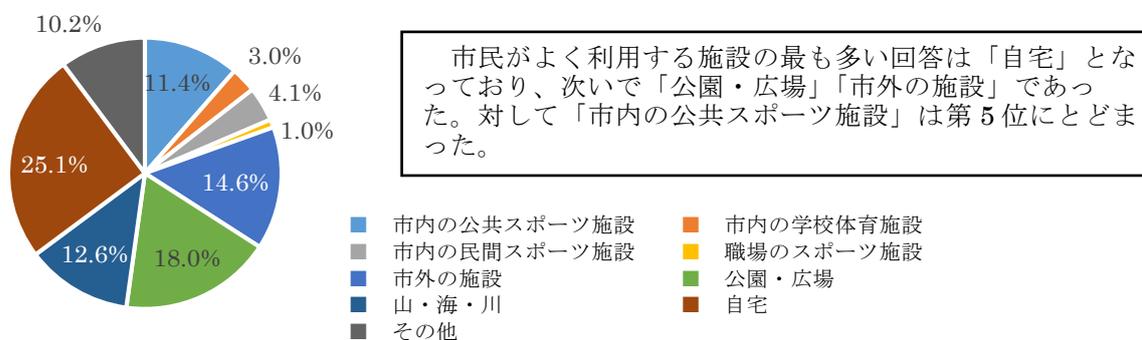


1) あなたは、運動やスポーツに関してどのような情報が欲しいですか。(複数回答可)

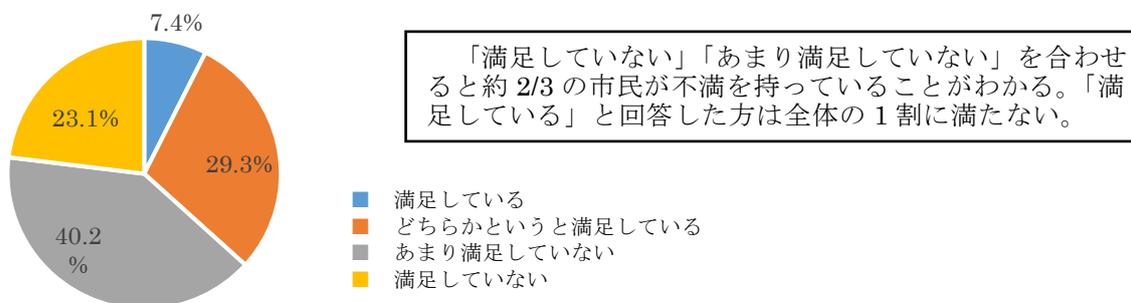


2 スポーツ施設に関するアンケート

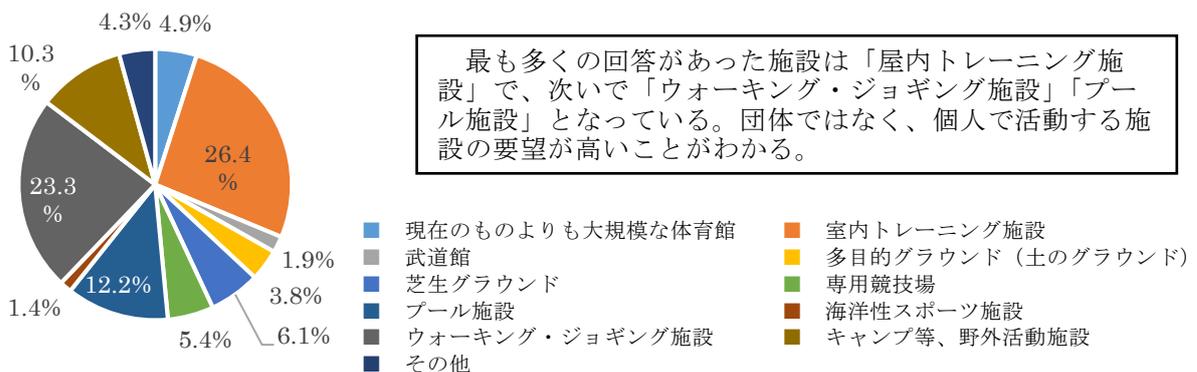
1) あなたがよく利用する施設や場所はどこですか。(複数回答可)



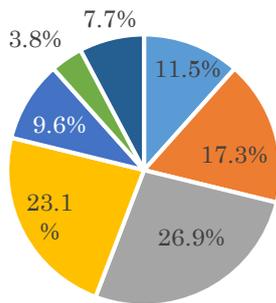
2) あなたは、瀬戸内市のスポーツ施設に満足していますか。



3) 前の間で「あまり満足していない」「満足していない」という回答をされた方にお伺いします。今後、どのような施設の整備を望みますか。(3つ以内の複数回答可)



4) 前の問で「専用競技場」と回答した方にお伺いします。どのような施設の整備を望みますか。



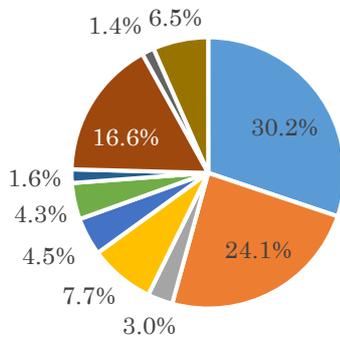
問3)で「専用競技場」と回答した割合は5.4%と高くないが、その要望は「サッカー・ラグビー場」が最も多く、次いで「テニスコート」「陸上競技場」となっている。

- 野球場
- サッカー・ラグビー場
- テニスコート
- 弓道場
- その他
- 陸上競技場
- 器械体操施設

3 指導者・ボランティアに関するアンケート

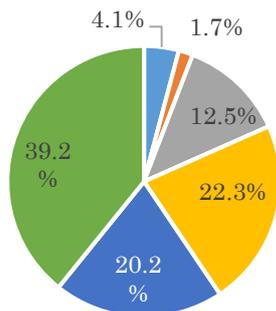
1) 運動・スポーツを行うにあたって、どのような指導者が必要だと思いますか。

(2つ以内の複数回答可)



- 楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる指導者
- 健康・体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる指導者
- 競技力向上のための高度な技術指導ができる指導者
- 年間を通して定期的に指導ができる指導者
- 指導に関する資格を持っている指導者
- スポーツイベントの企画や運営ができる指導者
- いろいろなニュースポーツの指導ができる指導者
- 高齢者のスポーツ指導ができる指導者
- その他
- わからない

2) この1年間ぐらいの間に、スポーツの指導やイベントの協力など、スポーツに関するボランティア活動を行いましたか。また今後、行いたいと思いますか。

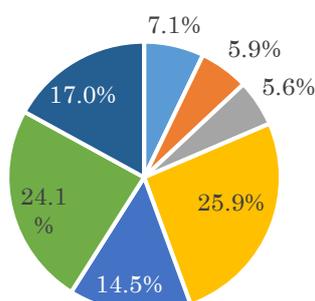


「行った」「行いたい」を併せても全体の1/5程度であり、対して「行いたくない」は約40%に上る。また、最も多い回答は「わからない」であり、スポーツボランティアに対する認識の低さが伺える。

- 行った
- できれば行いたい
- 全く行いたくない
- わからない
- 行かない
- 行かない

3) あなたが、行っている、または、行いたいボランティア活動は何ですか。

(複数回答可)



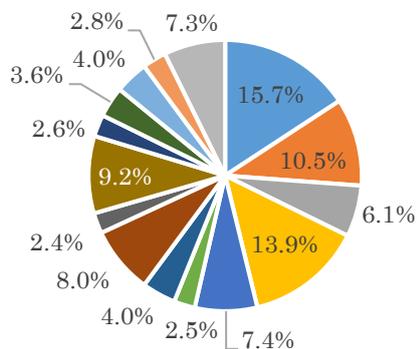
最も多い回答は「大会やイベントの運営補助」であり、次いで「施設等の環境整備」「その他」となっている。

- スポーツの指導
- 大会やイベントの審判や役員
- 大会やイベントの企画の補助
- その他
- サークルやチームなどの育成
- 大会やイベントの運営補助
- 施設等の環境整備

4 スポーツ観戦に関するアンケート

1) あなたが、よく観戦するスポーツは何ですか。(テレビ・ネット含む)

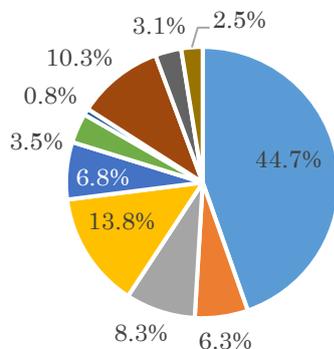
(複数回答可)



最も多くの回答があった種目は「野球」で、次いで「マラソン・駅伝」「サッカー」となっている。

- 野球
- テニス
- ゴルフ
- 卓球
- バスケットボール
- バドミントン
- 格闘技
- 全く(ほとんど)観ない
- サッカー
- マラソン・駅伝
- ラグビー
- 大相撲
- バレーボール
- 体操
- その他

2) あなたが、スポーツを観戦するのはどのような理由ですか。(複数回答可)



半数近くが「そのスポーツが好きだから」と回答している。次いで「なんとなく」「チーム(選手)の応援」となっている。

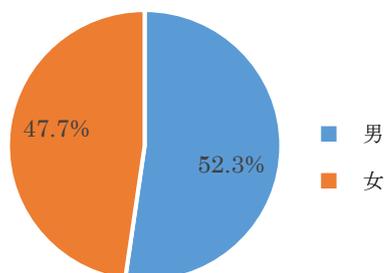
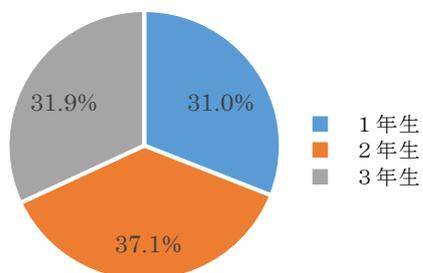
- そのスポーツが好きだから
- ストレス発散
- 暇つぶし
- なんとなく
- そのスポーツを実施しているから
- 友人や家族に誘われたから
- チケットがあったから
- チーム(選手)の応援
- 家族・友人の応援
- その他

● 中学生を対象とした調査結果

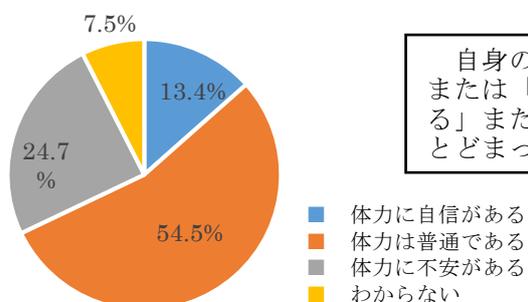
1 スポーツの実施に関するアンケート

※ 学年比

※ 男女比

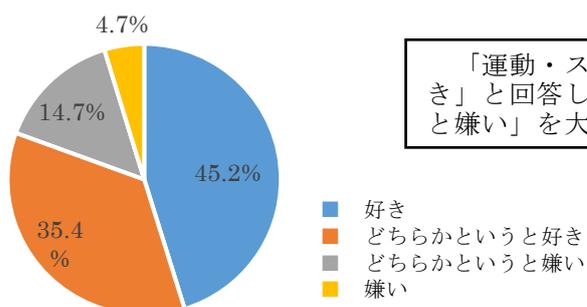


1) あなたは、ご自身の体力についてどのように感じていますか。



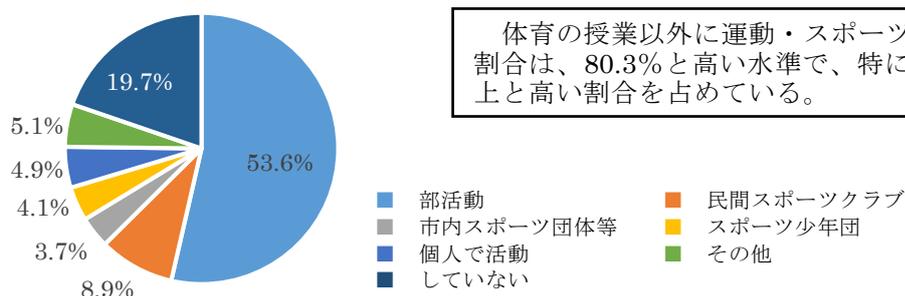
自身の体力については、約 2/3 の生徒が「自信がある」または「普通である」と回答しており、「体力に不安がある」または「わからない」と回答した生徒は約 1/3 程度にとどまった。

2) あなたは、運動・スポーツをすることが好きですか。



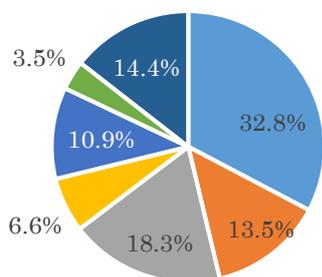
「運動・スポーツが好き」または「どちらかという好き」と回答した生徒は 80.6%で「嫌い」「どちらかという嫌い」を大きく上回った。

3) あなたは、学校の体育の授業以外にスポーツをしていますか。(複数回答可)



体育の授業以外に運動・スポーツを実施している生徒の割合は、80.3%と高い水準で、特に部活動が全体の 5 割以上と高い割合を占めている。

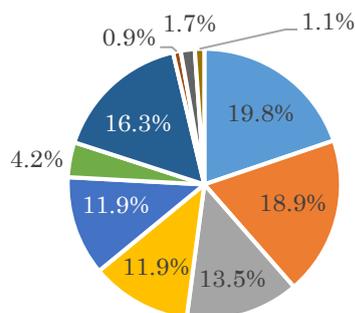
4) 問3)で「していない」と回答された方にお伺いします。運動・スポーツをしていないのはどのような理由からですか。(複数回答可)



運動・スポーツを実施していない生徒の約1/3は運動・スポーツが「好きではない」と回答している。次いで「やりたい種目の部活動がない」となっており、学校の部活動を維持することが困難な状況であることが伺える。また、「学習塾等で時間がない」も13.5%であり、運動やスポーツを実施する時間的余裕がない生徒も少なくないことを示している。

- 好きではない
- 学習塾等で時間がない
- やりたい種目の部活動がない
- やりたい種目の団体・サークル等がない
- やりたい種目の場所や施設がない
- 同じ種目をする仲間がない
- その他

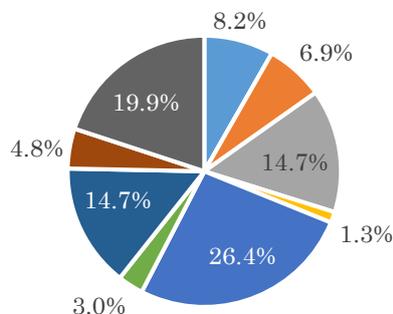
5) 運動部活動を含め、定期的に運動・スポーツを実施している方にお伺いします。あなたが運動やスポーツをしているのはどのような目的からですか。(複数回答可)



運動・スポーツを実施している目的については、ほぼ均等にその目的が分かれているが、「健康・体力づくり」が最も多く、次いで「楽しみ・ストレスの解消」「友人・仲間との交流」となっている。また、「運動不足の解消」「自己記録や能力の向上」も多く、現在実施している運動・スポーツを「競技スポーツ」として捉え、実践している生徒も多いことを示している。

- 健康・体力づくり
- 楽しみ・ストレス解消
- 運動不足解消
- 自己記録や能力向上
- 目標の達成
- 精神の修養や訓練
- 友人や仲間との交流
- 地域との交流
- 家族とのふれあい
- その他

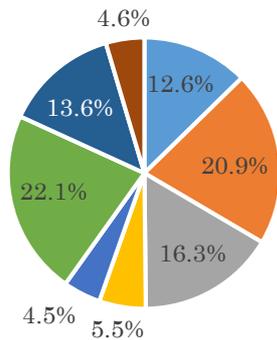
6) 運動部活動以外で定期的に運動・スポーツを実施している方にお伺いします。所属している団体はどのような団体ですか。(複数回答可)



部活動以外の運動・スポーツ活動について、最も多い回答は「民間のスポーツクラブ」となっている。次いで「所属なし」となっており、個人で活動している生徒が多いことが伺える。また、「社会体育施設の定期利用団体」「学校体育施設の定期利用団体」は割合が低く、中学生が各施設の定期利用団体に属していることは比較的少ないことがわかる。

- 社会体育施設の定期利用団体
- 学校体育施設の定期利用団体
- スポーツ少年団
- 総合型地域スポーツクラブ
- 民間のスポーツクラブ
- その他の市内任意団体
- 市外のスポーツ団体
- その他
- 所属なし

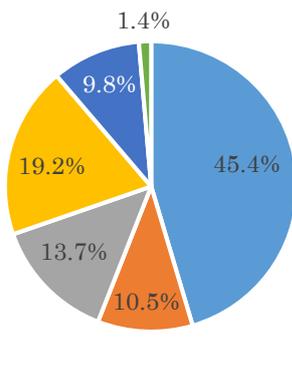
7) 運動部活動を含め、定期的に運動・スポーツを実施している方にお伺いします。
 あなたがその運動・スポーツを始めたきっかけは何ですか。(複数回答可)



「そのスポーツが好きだから」という回答が最も多く、次いで「友達にすすめられたから」となっている。また、家族が実施している、または、実施していたスポーツを行う傾向も見られる。

- 親や先生にすすめられたから
- 友だちにすすめられたから
- 家族がやっていたから
- 目標とするスポーツ選手がいるから
- テレビやマンガの主人公などの影響
- その運動やスポーツが好きだったから
- なんとなく
- その他

8) 運動部活動を含め、定期的に運動・スポーツを実施している方にお伺いします。
 あなたがその運動・スポーツを始めたのはいつからですか。複数の運動・スポーツを実施している方は、() に種目をご記入ください。

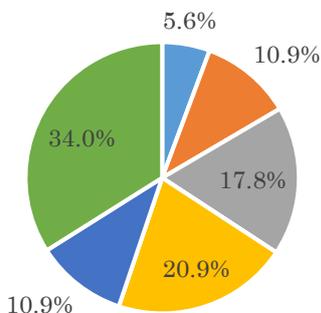


中学生になってからその運動・スポーツを始めた生徒が45.4%と高い値を示しており、運動・スポーツの継続的实施のため、中学生に対するアプローチは重要であると言える。また、小学校1・2年生から始めた生徒は、スポーツ少年団への加入が多くを占めるものと思われる。

- 中学生になってから
- 小学校5～6年生から
- 小学校3～4年生から
- 小学校1～2年生から
- 幼児期から
- わからない

2 ボランティアに関するアンケート

1) あなたは、スポーツに関するボランティアを行っていますか。また今後行いたいと思いますか。

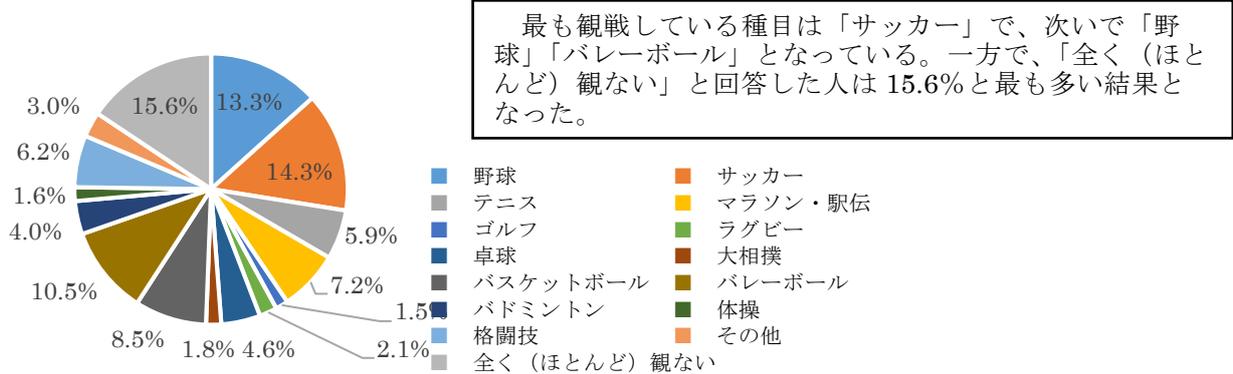


中学生のボランティアに関する意識は高いとは言えない状況である。また、スポーツに関するボランティアの内容がわからないケースも見られ、「わからない」と回答した生徒が最も多くなっている。

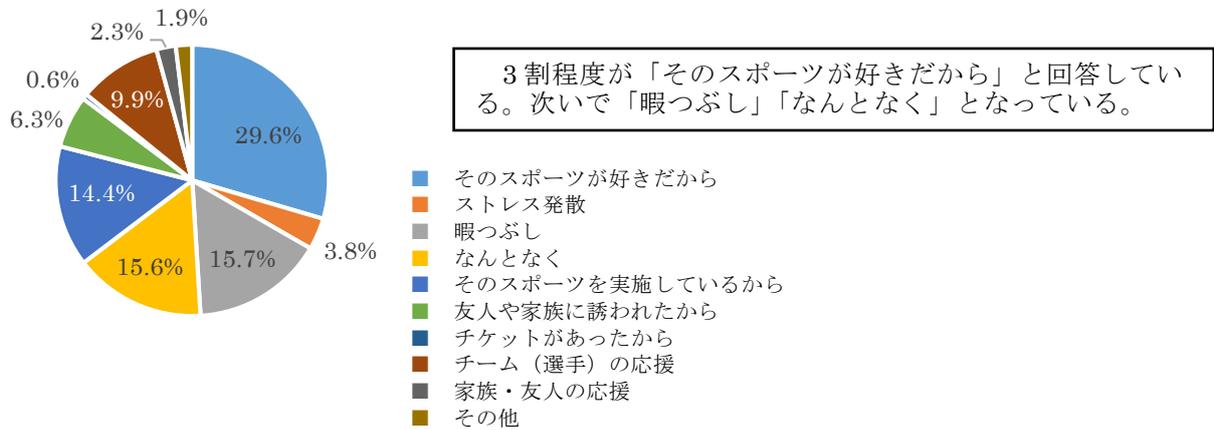
- 行っている
- できれば行いたい
- 全く行いたくない
- ぜひ行いたい
- あまり行いたくない
- わからない

3 スポーツ観戦に関するアンケート

1) あなたが、よく観戦するスポーツは何ですか。(テレビ・ネット含む)
(複数回答可)



2) あなたが、スポーツを観戦するのはどのような理由ですか。(複数回答可)

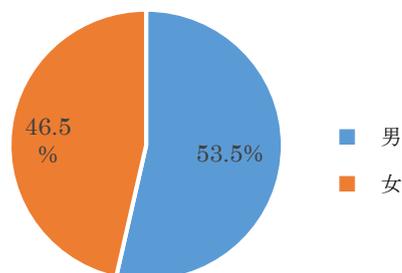
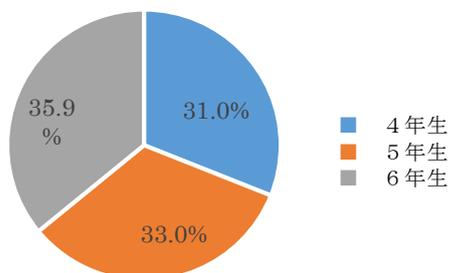


● 小学生（4～6年生）を対象とした調査結果

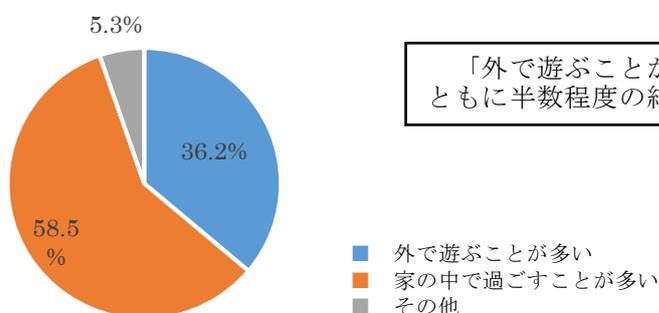
1 スポーツの活動に関するアンケート

※ 学年比

※ 男女比

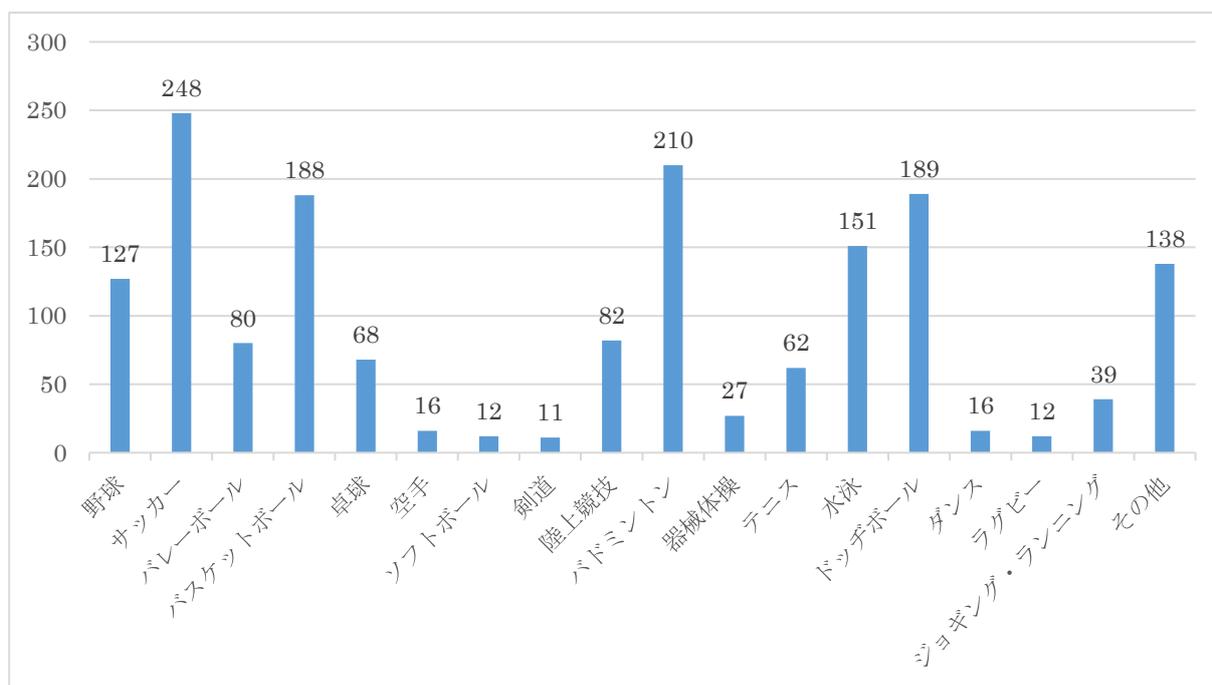


1) あなたは、休みの日などの自由な時間をどのように過ごすことが多いですか。



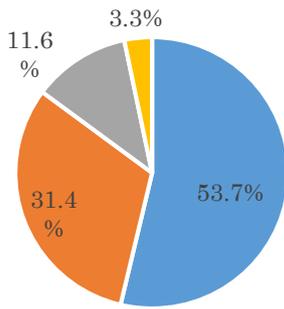
「外で遊ぶことが多い」「家の中で過ごすことが多い」ともに半数程度の結果となった。

2) あなたは、どんなスポーツが好きですか。3つ以内でお答えください。



スポーツ少年団にその種目がある競技は比較的人気が高いことが伺える。また、ドッチボール、水泳など、遊びの要素が多く含まれる競技も人気が高い。「その他」の中には「フットサル」「ダンス」「スケート」「カヌー」など、回答数が「10以下」のものが含まれる。

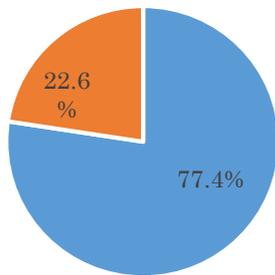
3) あなたは、運動やスポーツをすることが好きですか。



「運動・スポーツが好き」または「どちらかという好き」と回答した児童は85.2%に上り、「嫌い」「どちらかという嫌い」という児童を大きく上回った。

- 好き
- どちらかという好き
- どちらからという嫌い
- 嫌い

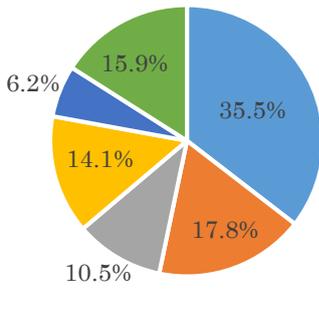
4) あなたは、学校の体育の授業以外に運動やスポーツをしていますか。



学校の体育の授業以外に運動・スポーツを実施している児童の割合は77.4%と高い水準であると言える。

- している
- していない

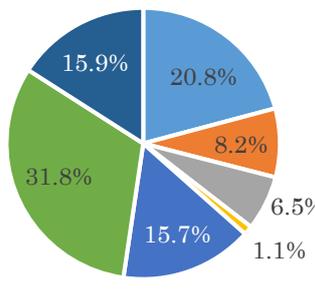
5) 問4)で「していない」と答えた人にたずねます。運動・スポーツをしていないのはどのような理由からですか。(✓は2つまで)



運動・スポーツを実施していない児童の約1/3は、「運動・スポーツが好きではない」と回答している。次いで「習い事などで時間がない」となった。

- スポーツが好きではない
- 習い事などで時間がない
- やりたい種目のグループがない
- スポーツをする仲間がない
- やりたい種目の場所や施設がない
- その他

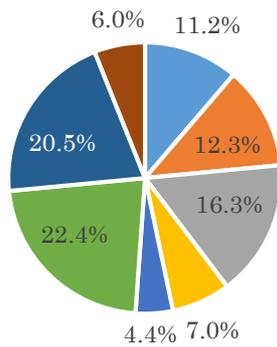
6) あなたが、学校の授業以外で運動やスポーツをしているのはどこですか。(あてはまる場所すべてに✓)



「ひとり、または、家族」で運動・スポーツを実施している児童が最も多い結果となった。また「スポーツ少年団」も約1/5を占め、「その他」には「友達と運動を行っている」という回答が多く見られた。

- スポーツ少年団
- 学校体育施設の定期利用団体
- スポーツクラブなど
- その他
- 社会体育施設の定期利用団体
- 地区の子ども会
- ひとり、または、家族

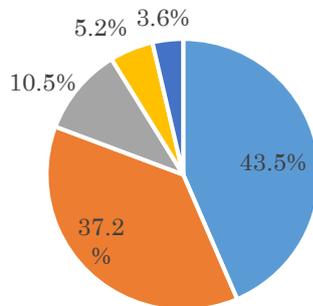
7) あなたが、運動やスポーツをはじめたきっかけは何ですか。(✓は3つまで)



「そのスポーツが好きだから」という回答が最も多く、次いで「なんとなく」となっている。また「親や先生のすすめ」「友達のすすめ」「家族が実施していたから」など、他者の影響でスポーツを行う傾向も見られる。

- 親や先生にすすめられたから
- 友だちにすすめられたから
- 家族がやっていたから
- 好きな選手やめざしている選手がいるから
- テレビやマンガの主人公などにあこがれたから
- その運動やスポーツが好きだったから
- なんとなく
- その他

8) あなたは、中学生になっても今の運動やスポーツを続けたいですか。



中学生になってもその運動やスポーツを続けたいと考えている児童が全体の8割以上となり、「違う運動やスポーツをしたい」を含めると運動・スポーツを実施したい割合は91.2%に上る

- 続けたい
- できれば続けたい
- ちがう運動やスポーツがしたい
- できれば運動やスポーツをやめたい
- その他



瀬戸内市スポーツ推進計画（改訂版）

令和4年3月

発行：瀬戸内市

編集：瀬戸内市教育委員会社会教育課

〒701-4392

瀬戸内市牛窓町牛窓 4911 番地

TEL. (0869) 34-5605

FAX. (0869) 34-4790

E-Mail : syakaikyoubu@city.setouchi.lg.jp

